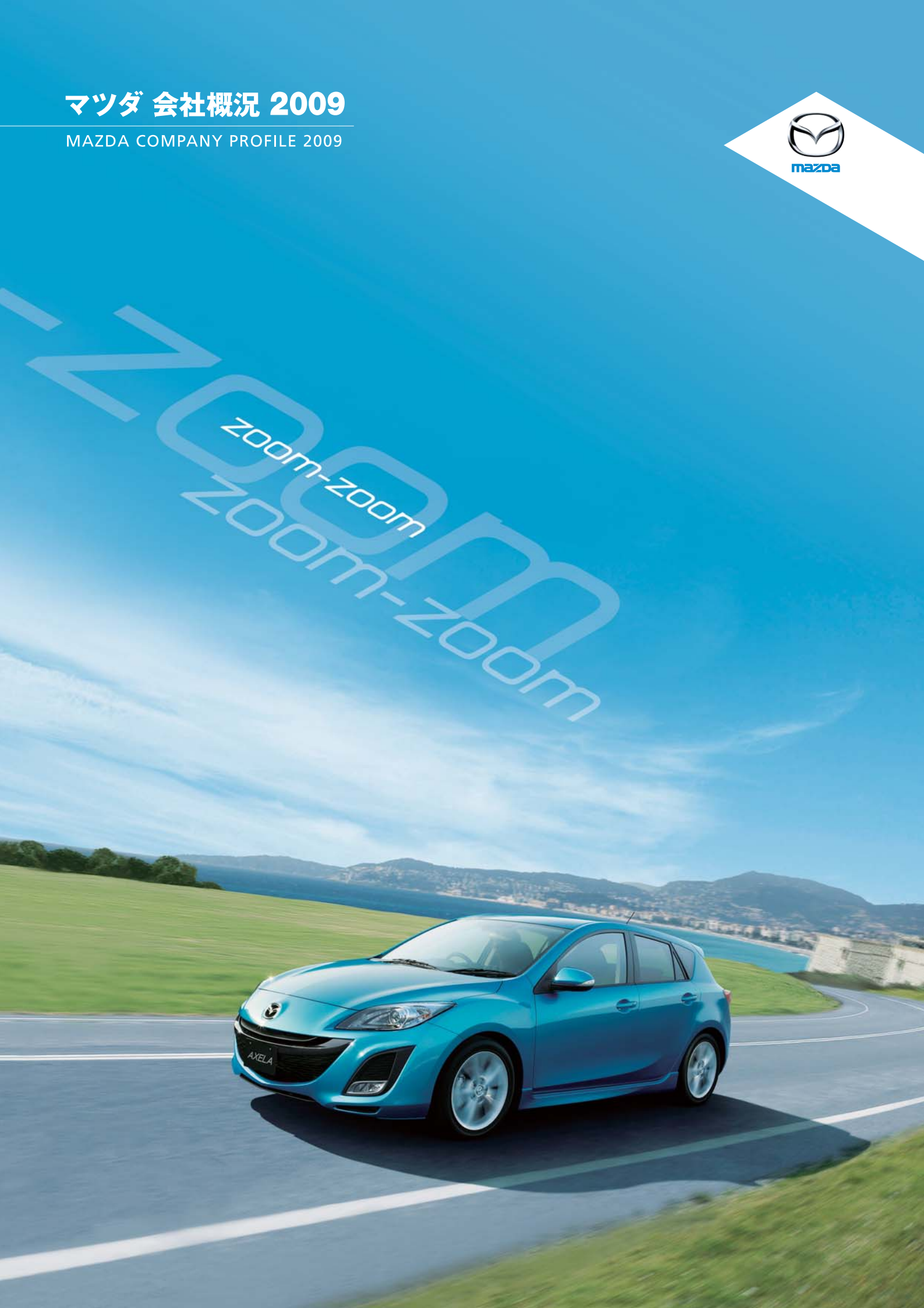
マツダ 会社概況 2009

MAZDA COMPANY PROFILE 2009



はじめに

企業ビジョン（1999年12月制定）

マツダは1999年、「企業ビジョン」を制定しました。「企業ビジョン」は、「Vision（企業目標）」、「Mission（役割と責任）」、「Value（マツダが生み出す価値）」の3つの要素で構成され、マツダとマツダの社員が目指すもの、その役割と責任、それをどのような価値観をもって達成するのかを表しています。

Vision

新しい価値を創造し、最高のクルマとサービスにより、お客様に喜びと感動を与え続けます。

Mission

私たちは情熱と誇りとスピードを持ち、積極的にお客様の声を聞き、期待を上回る創意に富んだ商品とサービスを提供します。

Value

私たちは誠実さ、顧客志向、創造力、効率的で迅速な行動を大切にし、意欲的な社員とチームワークを尊重します。
環境と安全と社会に対して積極的に取り組みます。そしてマツダにつながる人々に大きな喜びを提供します。

マツダブランドシンボル（1997年6月制定）

「自らをたゆまず改革し続けることによって、力強く、留まることなく発展していく」というブランドシンボル制定のマツダの決意を、未来に向けて羽ばたくMAZDAの〈M〉の形に象徴しています。

マツダコーポレートマーク（1975年制定）

1975年のCI導入を機に、コミュニケーションの核となる企業シンボル（マツダシンボル）として制定しました。その後、1997年のブランドシンボル制定に伴い、可読性を生かした「マツダコーポレートマーク」と位置づけています。

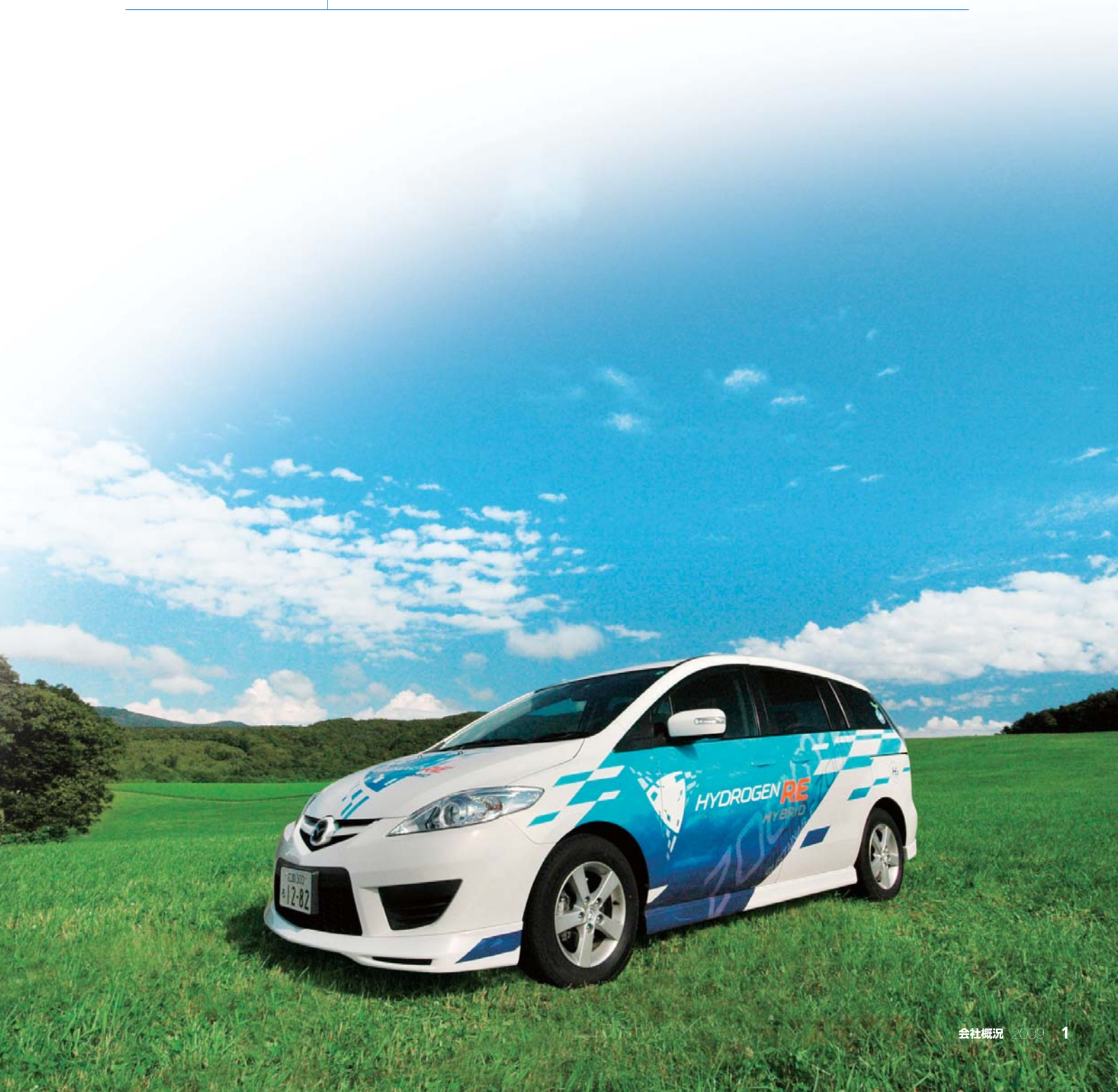
mazda

「マツダ」の由来と意味

社名「マツダ」は、西アジアでの人類文明発祥とともに誕生した神、アフラ・マズダー（Ahura Mazda）に由来します。この叡智・理性・調和の神を、東西文明の源泉的シンボルかつ自動車文明の始原的シンボルとして捉え、世界平和を希求し自動車産業の光明となることを願って名付けられました。それはまた、自動車事業を始めた松田重次郎（じゅうじろう）の姓にもちなんでいます。

目　次 Contents

はじめに …… 1
会社の概要と実績 …… 2
役員 …… 4
主な子会社・関連会社 …… 6
研究開発 …… 8
地域別の活動
　日本 …… 9
　北米 …… 12
　欧州 …… 14
　中国 …… 16
　アジア・大洋州 …… 18
　カリブ・中南米・中近東・アフリカ …… 20
経営計画 …… 22
技術開発長期ビジョン …… 23
環境問題への取り組み …… 24
安全への取り組み …… 26
社会貢献活動 …… 28
ブランド戦略の展開 …… 30
社員 …… 31
フォードとの関係 …… 32
社歴 …… 33
製品名の由来 …… 39
製品一覧 …… 40



会社の概要と実績

会社概要 （2009年11月13日現在）

社　　名	マツダ株式会社（英訳名：Mazda Motor Corporation）
会社設立	大正9年（1920年）1月30日
本　　社	〒730-8670　広島県安芸郡府中町新地3番1号
代 表 者	代表取締役社長兼CEO　山内 孝
主な事業内容	乗用車・トラックの製造、販売等
株　　式	発行可能株式総数　3,000,000,000株 発行済株式総数　1,780,377,399株（2009年11月13日現在） 株 主 数　66,134名（2009年3月31日現在）
資 本 金	186,499,736,762円（2009年11月13日現在）
従業員数	22,298名（2009年3月31日現在）（単独：出向者1,103名を含む）
研究開発拠点	本社、マツダR&Dセンター横浜、マツダモーターオブアメリカ(米国)、 マツダモーターヨーロッパ(ドイツ)、中国技術支援センター
生産拠点	国内：　本社工場（本社、宇品）、防府工場（西浦、中関）、三次事業所 海外：　米国、中国、台湾、タイ、フィリピン、ジンバブエ、 南アフリカ、エクアドル、コロンビア
物流拠点	国内　9箇所
販売会社	国内　277 社 (2008年12月31日現在) 海外　121 社 (2008年12月31日現在)
主要製品	四輪自動車、ガソリンレシプロエンジン、ディーゼルエンジン、ロータリーエンジン、 自動車用手動／自動変速機

グローバル生産 （2008年12月31日現在）

（台）

		2006年	2007年	2008年
グ ローバル		1,311,027	1,291,744	1,349,274
	国内	966,547	995,511	1,078,690
	海外	344,480	296,233	270,584

グローバル販売 （2008年12月31日現在）

（台）

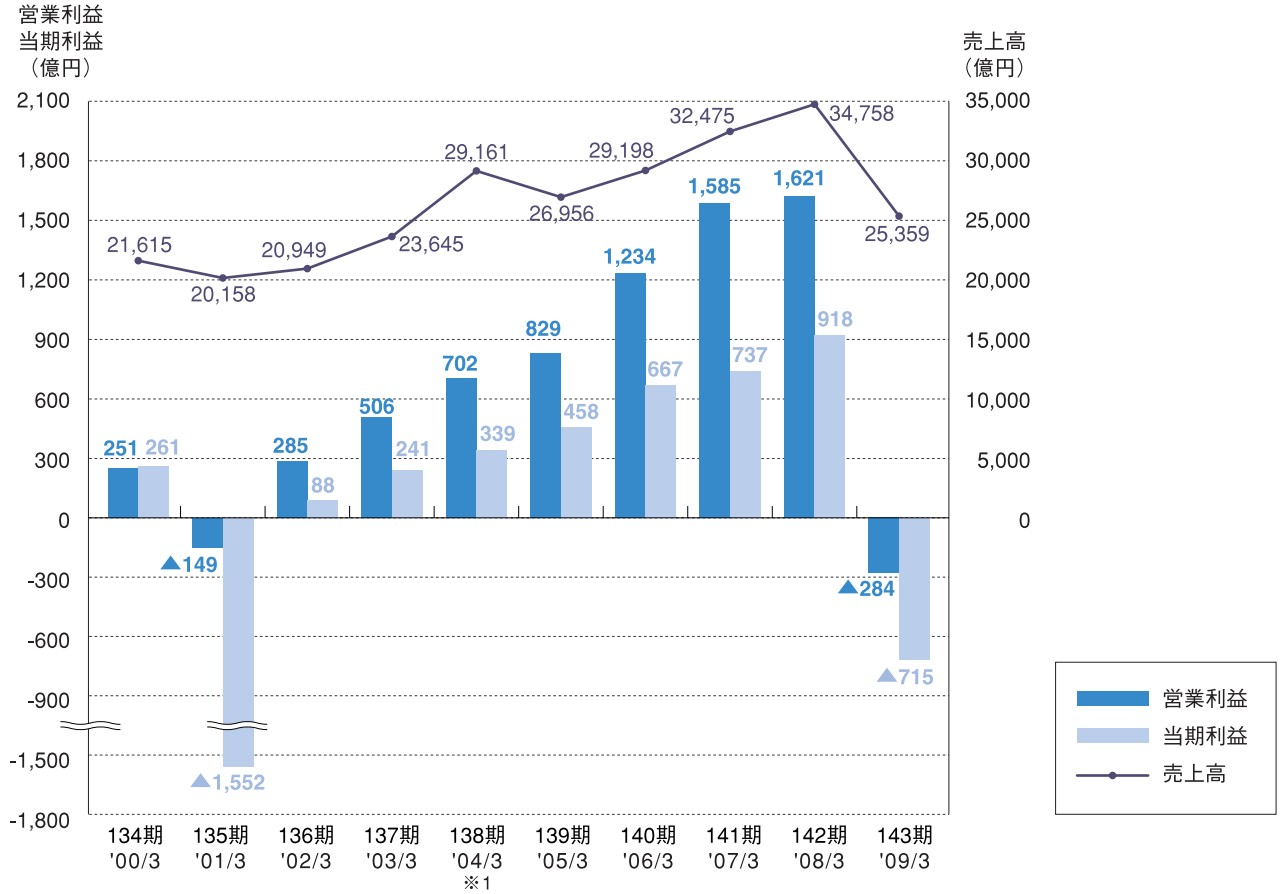
		2006年	2007年	2008年
グローバル		1,286,169	1,335,147	1,351,494
	日本	269,220	254,137	244,623
	北米	363,835	404,009	374,644
	欧州	306,698	311,247	339,969
	中国	126,063	101,900	127,846
	その他	220,353	263,854	264,412

最近の業績（連結ベース）

項　目		単位	139期 ('04.4～'05.3)	140期 ('05.4～'06.3)	141期 ('06.4～'07.3)	142期 ('07.4～'08.3)	143期 ('08.4～'09.3)
	国内	（億円）	8,456	8,877	8,873	8,801	6,203
	海外	（億円）	18,500	20,321	23,602	25,957	19,156
売上高		（億円）	26,956	29,198	32,475	34,758	25,359
営業利益		（億円）	829	1,234	1,585	1,621	△ 284
経常利益		（億円）	731	1,015	1,278	1,485	△ 187
税引前当期利益		（億円）	738	1,175	1,185	1,431	△ 513
当期利益		（億円）	458	667	737	918	△ 715
1株あたり当期利益		（円）	37.63	51.53	52.59	65.21	△ 52.13
設備投資額		（億円）	679	721	796	755	818
減価償却費		（億円）	400	458	470	665	752
研究開発費		（億円）	908	957	1,076	1,144	960
総資産		（億円）	17,678	17,887	19,078	19,856	18,010
純資産		（億円）	2,758	4,072	4,799	5,542	4,147
有利子負債残高		（億円）	5,281	4,554	4,747	5,050	7,534
純有利子負債残高		（億円）	3,135	2,468	2,322	2,811	5,326
キャッシュフロー		（億円）	359	336	210	102	△ 1,292
販売台数	国内	（千台）	※1 294	285	261	256	219
	海外	（千台）	※1 810	991	1,041	1,107	1,042
		（千台）	※1 1,104	1,276	1,302	1,363	1,261
従業員数		（人）	35,680	36,626	38,004	39,364	39,852

（注）フリーキャッシュフローは、営業活動によるキャッシュフローと投資活動によるキャッシュフローの合計。従業員数は、就業人員数であり出向者を除く。
※1: 139期は「出荷台数」、140期以降は「小売台数」を表示している。

業績推移



※1: 138期は、決算期を変更した主要海外子会社の15ヵ月決算の影響を含む。従来方法と比べ連結売上台数は149千台、連結売上高は3414億円それぞれ増加している。

役員（2010年6月24日現在）

取締役および監査役

代表取締役会長	山内　孝 （やまのうち　たかし）
代表取締役	山木勝治 （やまき　まさはる）
代表取締役	尾崎　清 （おざき　きよし）
代表取締役	トーマス・エイ・エイチ・ピクストン （Thomas A. H. Pixton）
取締役	金井誠太 （かない　せいた）
取締役	若山正純 （わかやま　まさずみ）
取締役	原田裕司 （はらだ　ゆうじ）
取締役	丸本　明 （まるもと　あきら）
取締役	小飼雅道 （こがい　まさみち）
監査役（常勤）	山本順一 （やまもと　じゅんいち）
監査役（常勤）	見立和幸 （みたて　かずゆき）
監査役	坂井一郎 （さかい　いちろう）
監査役	赤岡　功 （あかおか　いさお）
監査役	平澤正英 （ひらさわ　まさひで）

執行役員

※ 社長兼CEO（最高経営責任者）	山内　孝 （やまのうち　たかし）	
※ 副社長執行役員	山木勝治 （やまき　まさはる）	社長補佐、研究開発・生産・購買・品質統括
※ 専務執行役員兼CFO（最高財務責任者）	尾崎　清 （おざき　きよし）	企画・商品収益管理統括、財務・コスト革新担当
※ 専務執行役員	トーマス・エイ・エイチ・ピクストン （Thomas A. H. Pixton）	社長補佐、フォード提携関係統括
※ 専務執行役員	金井誠太 （かない　せいた）	研究開発・プログラム開発推進担当、 株式会社マツダE&T代表取締役社長
※ 専務執行役員	若山正純 （わかやま　まさずみ）	グローバルマーケティング・グローバル販売・ カスタマーサービス統括
※ 専務執行役員	原田裕司 （はらだ　ゆうじ）	CSR・環境・広報担当、CFO(最高財務責任者)補佐、 法人販売補佐
※ 専務執行役員	丸本　明 （まるもと　あきら）	経営企画・商品戦略・商品収益管理担当、 コスト革新担当補佐
※ 専務執行役員	小飼雅道 （こがい　まさみち）	生産・物流・ITソリューション担当、 コスト革新担当補佐、研究開発担当補佐

（注）　※印は取締役との兼務を示す。

常務執行役員	ジェームズ・ジェイ・オサリバン (James J. O'Sullivan)	マツダモーターオブアメリカ, Inc. (マツダノースアメリカンオペレーションズ)社長兼CEO
常務執行役員	江川恵司 (えがわ けいし)	マツダモーターオブアメリカ, Inc. (マツダノースアメリカンオペレーションズ)執行副社長(EVP)兼COO
常務執行役員	稲本信秀 (いなもと のぶひで)	国内営業担当、国内営業本部長
常務執行役員	龍田康登 (たつた やすと)	開発担当補佐(モノ造り革新担当)、 トーヨーエイテック株式会社代表取締役社長
常務執行役員	太刀掛哲 (たちかけ さとし)	品質担当
常務執行役員	金澤啓隆 (かなざわ ひろたか)	車両開発・電気駆動システム開発・技術研究所担当、 コスト革新担当補佐
常務執行役員	黒沢幸治 (くろさわ こうじ)	秘書・グローバル監査・人事・コーポレート業務推進・ コンプライアンス・リスクマネジメント・病院担当
常務執行役員	川上浩三 (かわかみ こうぞう)	カスタマーサービス担当、 マツダパーツ株式会社代表取締役社長
常務執行役員	中峯勇二 (なかみね ゆうじ)	海外販売担当、海外販売本部長、 マツダ・サウス・イースト・アジア, Ltd.社長
常務執行役員	ジェフリー・エイチ・ガイトン (Jeffrey H. Guyton)	マツダモーターヨーロッパGmbH社長兼CEO
常務執行役員	山田憲昭 (やまだ のりあき)	中国事業担当、 マツダ(中国)企業管理有限公司董事長兼執行総裁
常務執行役員	今井一基 (いまい かずき)	購買担当、コスト革新担当補佐
執行役員	楠橋敏則 (くすはし としのり)	オートアライアンス(タイランド)Co.,Ltd. 社長
執行役員	山本寛 (やまもと ひろし)	国内営業本部法人販売担当、 マツダ中販株式会社代表取締役社長
執行役員	光田稔 (みつだ みのる)	企画担当補佐、渉外担当、東京本社統括(東京駐在)
執行役員	中野雅文 (なかの まさふみ)	本社工場長
執行役員	菖蒲田清孝 (しょうぶだ きよたか)	技術本部長
執行役員	藤原清志 (ふじわら きよし)	商品企画・パワートレイン開発担当
執行役員	毛籠勝弘 (もろ まさひろ)	グローバル販売統括補佐、 グローバルマーケティング担当
執行役員	古賀亮 (こが あきら)	企画本部長
執行役員	ポール・アール・ランドル (Paul R.Randle)	R&Dリエゾン室長
執行役員	古玉尚 (ふるたま たかし)	商品収益管理本部長
執行役員	フィリップ・ジェイ・ワリング (Philip J.Waring)	マツダモーターヨーロッパGmbH COOセールス&マーケティング
執行役員	内田成明 (うちだ なりあき)	防府工場長

主な子会社・関連会社

連結子会社 54社 （2009年3月31日現在）

日本における連結子会社

会社名	所有率	業務内容
（株）函館マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
（株）マツダアンフィニ北海道	100.0%	自動車の販売および修理
（株）東北マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
（株）福島マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
（株）北関東マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
新潟マツダ自動車（株）	100.0%	自動車の販売および修理
（株）甲信マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
（株）関東マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
静岡マツダ（株）	100.0%	自動車の販売および修理
新岐阜マツダ販売（株）	100.0%	自動車の販売および修理
東海マツダ販売（株）	100.0%	自動車の販売および修理
（株）北陸マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
（株）京滋マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
（株）関西マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
（株）西四国マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
（株）九州マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
（株）南九州マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
沖縄マツダ販売（株）	100.0%	自動車の販売および修理
マツダパーツ（株）	99.7%	自動車部品の販売
マツダモーターインターナショナル（株）	100.0%	自動車卸売（商社）
（株）マツダオートザム	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダ中販（株）	100.0%	中古自動車販売
マロックス（株）	99.6%	自動車および部品運送
倉敷化工（株）	75.0%	自動車部品製造販売
マイクロテクノ（株）	100.0%	自動車部品製造販売
（株）マツダ　E&T	100.0%	特装車製造、開発
トーヨーエイテック（株）	100.0%	金属加工機械製造販売
マツダエース（株）	100.0%	保険・不動産等

海外における連結子会社

会社名	所在国	所有率	業務内容
マツダモーターオブアメリカ,Inc.	USA	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダカナダ,Inc.	カナダ	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダ・モトール・デ・メヒコS. de R.L. de C.V.	メキシコ	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダ・セルヴィシオス・デ・メヒコS. de R.L. de C.V.	メキシコ	100.0%	マツダ・モトール・デ・メヒコに対する人材サービス
マツダモータース（ドイツランド）GmbH	ドイツ	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V.	ベルギー	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダモーターヨーロッパGmbH	ドイツ	100.0%	欧州市場の事業統括
マツダモーターハンガリーKFT	ハンガリー	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダモータークロアチアd.o.o.	クロアチア	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダモータースロベニアd.o.o.	スロベニア	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダオトモビルフランスS.A.S.	フランス	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダモータースUK Ltd.	イギリス	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダスイスS.A.	スイス	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダモトールデポルトガルLda.	ポルトガル	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダオートモービルズエスパーニャ,S.A.	スペイン	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダモーターイタリア,S.p.A.	イタリア	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダオーストリアGmbH	オーストリア	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダモーターロシア,OOO	ロシア	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダオーストラリアPty Ltd.	オーストラリア	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダモータースオブニュージーランドLtd.	ニュージーランド	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
コンパニアコロンビアナアウトモトリスS.A.	コロンビア	100.0%	自動車製造販売
ベイクロスマツダデベネズエラC.A.	ベネズエラ	100.0%	自動車及び部品販売（卸売）
マツダセールス（タイランド）Co., Ltd.	タイ	96.1%	自動車および部品販売（卸売）
マツダサウスイーストアジアLtd.	タイ	100.0%	アセアン市場の事業統括
PTマツダモーターインドネシア	インドネシア	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダ（中国）企業管理有限公司	中国	100.0%	中国市場の事業統括

持分法適用関連会社 14社 （2009年3月31日現在）

日本における持分法適用関連会社

会社名	所有率	業務内容
SMMオートファイナンス（株）	40.0%	自動車小売金融
マツダ部品広島販売（株）	33.3%	自動車部品の販売
マツダ部品山口販売（株）	33.3%	自動車部品の販売
マツダ部品西九州販売（株）	30.0%	自動車部品の販売
（株）マツダプロセシング中国	29.0%	納車点検・架装
ヨシワ工業（株）	33.3%	自動車部品製造販売
（株）日本クライメイトシステムズ	33.3%	自動車部品製造販売
MCMエネルギーサービス（株）	50.0%	蒸気・電力の供給販売
（株）サンフレッチェ広島	21.8%	プロサッカー球団運営

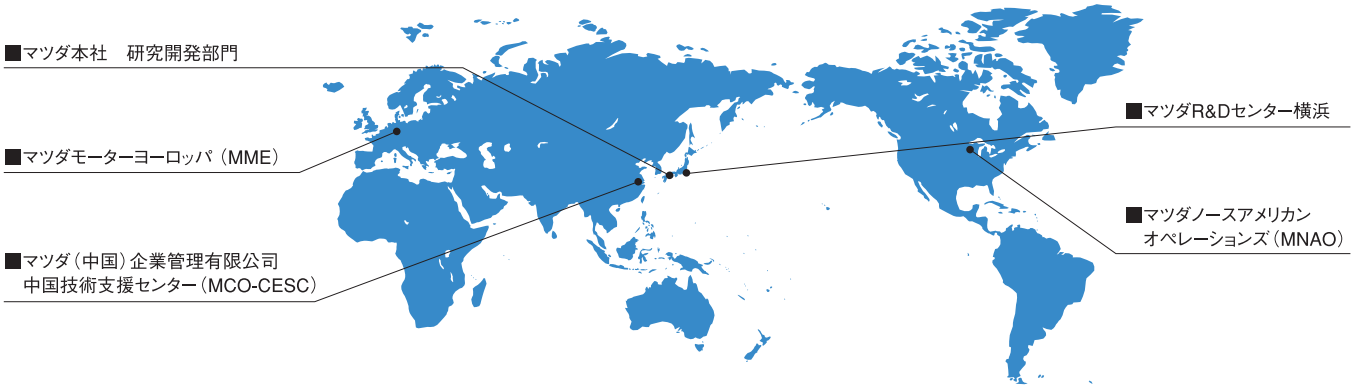
海外における持分法適用関連会社

会社名	所在国	所有率	業務内容
オートアライアンス・インターナショナル,Inc.	USA	50.0%	自動車製造販売
オートアライアンス（タイランド）Co., Ltd.	タイ	50.0%	自動車製造販売
一汽マツダ汽車販売有限公司	中国	25.0%	自動車および部品販売（卸売）
長安フォードマツダエンジン有限公司	中国	25.0%	自動車エンジン製造
長安フォードマツダ汽車有限公司	中国	15.0%	自動車製造販売

研究開発

研究開発拠点

世界の市場動向、先端的な技術動向を迅速かつ的確に把握し、それぞれの市場特性にマッチした個性的でイノベーティブな商品開発を推進しています。そのため、日米欧中に研究開発拠点を置いています。



	名　称	所在地	主な研究内容
日　本	本社　研究開発部門	広島県安芸郡府中町	・商品、技術企画 ・デザイン開発 ・商品開発および育成 ・重要新技術の先行研究
	マツダR&Dセンター横浜	神奈川県横浜市 神奈川区守屋町	・先行商品の企画 ・先行デザインの調査研究、開発 ・重要新技術の先行研究
米　国	マツダノースアメリカン オペレーションズ（MNAO）※1	カリフォルニア州 アーバイン	・北米市場における技術／市場動向などの調査、研究 ・北米市場におけるデザインの開発 ・北米市場における商品適合性評価
		ミシガン州 フラットロック	
欧　州	マツダモーターヨーロッパ （MME）	ドイツ　ヘッセン州 オーバーウァゼル	・欧州市場における技術／市場動向などの調査、研究 ・欧州市場におけるデザインの開発 ・欧州市場における商品適合性評価
中　国	マツダ（中国）企業管理有限公司 中国技術支援センター（MCO-CESC）	上海市	・中国市場における技術／市場動向などの調査、研究

※1「マツダモーターオブアメリカ,Inc.」「マツダカナダ,Inc.」「マツダ・モトール・デ・メヒコS. de R.L. de C.V.」「Plaza Motors Corp.（プエルトリコ）」を総称して「マツダノースアメリカンオペレーションズ（MNAO）」と呼んでいる。（2008年12月31日現在）

総合自動車試験場・テスト基地

名　称	所在地	開　設	土地面積	主な研究内容
三次自動車試験場	広島県三次市	1965年 6月	1,677千㎡	新商品の基本性能開発・育成の拠点として、クルマに要求される、走る・曲がる・止まるの走行テストを実施するとともに、大型の試験設備を駆使して、安全技術、環境技術の開発に取組んでいます。
美祢自動車試験場	山口県美祢市	2006年 5月	603千㎡	三次自動車試験場にないテストコースを新設し、操縦安定性の限界テスト等、車の商品性向上に寄与しています。
北海道剣淵試験場	北海道上川郡剣淵町	1990年 1月	4,700千㎡	積雪路面での4WD・ABS・TCS※2・DSC※3など、安全走行システムの開発テストや、氷・雪害などに対する技術開発・商品性能向上等、寒冷地特有のテストを行っています。
北海道中札内試験場	北海道河西郡中札内村	2002年 1月	206千㎡	さまざまな気象環境条件の下での、車両の性能を開発するための北海道内2番目の試験場です。主に、凍結路面でのABS・TCS・DSCなどの安全走行システムの開発テストを行っています。

※2 TCS（トラクションコントロールシステム）：路面、および走行状況に即応して駆動力を最適化する機構。
※3 DSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）：4輪ABS（アンチロックブレーキシステム）とトラクションコントロールの機能を統合し、エンジン出力制御と4輪個別の制動力を最適に制御することによって、クルマの横滑り防止を図る機構である。滑りやすい路面でのコーナリングや、危険回避のための急ハンドル操作時などにも、安定した走行姿勢を保つ。

日本での生産活動　（2008年12月31日現在）

・マツダは、1931年に3輪トラックの生産を開始し、自動車事業をスタートしました。1960年には軽自動車「マツダR360クーペ」の生産を開始し、乗用車部門へ本格的に参入しました。2007年7月には国内生産累計4,000万台を達成しています。

・マツダは国内では広島、防府の2拠点に工場を持ち、人と環境にやさしく、かつ効率的な生産ラインの実現に取り組み、独自のフレキシブルな高品質・同期生産ラインを構築しています。

・2008年には、1993年以来15年ぶりに暦年生産台数が100万台を上回り、107.9万台を記録しました。

生産拠点概要

名　称	地区	所在地		生産品目	操業開始	土地面積
本社工場	本社	広島県安芸郡府中町		ガソリンレシプロエンジン、自動車用手動変速機	1931年 3月	551千㎡
	宇品		宇品第1（U1）工場	デミオ、ベリーサ、ロードスター、RX-8、MPV、CX-9※1、ビアンテ、ボンゴバン、ボンゴブローニイバン、デミオ（3ドアハッチバック）※1	1966年11月	1,685千㎡
			宇品第2（U2）工場	デミオ、プレマシー、CX-7	1972年12月	
				ガソリンレシプロエンジン、ディーゼルエンジン、ロータリーエンジン	1964年12月	
三次事業所		広島県三次市		ガソリンレシプロエンジン	1974年 5月	1,677千㎡
防府工場	西浦	山口県防府市	防府第1（H1）工場	アクセラセダン、アクセラスポーツ	1982年 9月	792千㎡
			防府第2（H2）工場	アテンザセダン、アテンザスポーツ、アテンザスポーツワゴン、アクセラセダン	1992年 2月	
	中関			自動車用自動変速機、手動変速機	1981年12月	537千㎡
プレス工業株式会社			尾道工場	タイタンダッシュ、ボンゴトラック、ボンゴブローニイトラック※1		

※1　輸出用のみ。
（注）本社地区には、本社周辺の所在地（渕崎地区）を含む。三次事業所は自動車試験場およびエンジン工場用地の合計。

国内生産台数推移

（台）

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
乗 用 車	758,269	806,064	906,862	952,290	1,038,725
商 用 車	60,461	58,865	59,685	43,221	39,965
合　　計	818,730	864,929	966,547	995,511	1,078,690

車種別国内生産台数ー累計

（台）

車　名		2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	生産累計台数
乗用車	デミオ／フェスティバミニワゴン	82,304	71,594	72,785	121,226	206,924	1,344,936
	ベリーサ	14,384	15,707	12,557	14,103	11,801	68,552
	ファミリア／レーザーリデア	11,240	5,720	6,740	3,920	0	10,603,072
	アテンザ	142,406	141,185	139,848	109,303	152,980	976,153
	アクセラ	316,524	364,668	380,771	417,186	396,895	1,962,496
	ロードスター	24,232	29,950	48,389	37,022	22,886	857,201
	RX-8	50,813	27,837	23,363	13,833	8,237	184,183
	プレマシー／イクシオン	24,592	83,288	121,457	102,580	106,698	685,753
	MPV	67,989	50,163	33,382	19,380	13,191	1,054,688
	ビアンテ	—	—	—	—	13,557	13,557
	トリビュート／エスケープ	19,911	13,005	455	300	500	119,996
	CX-7	—	—	60,812	72,648	60,641	194,101
	CX-9	—	—	6,303	40,789	44,415	91,507
	その他	3,874	2,947	0	0	0	12,561,006
計		758,269	806,064	906,862	952,290	1,038,725	29,675,140
商用車	ボンゴ（バン・トラック）	45,530	45,719	44,859	33,627	33,334	1,941,746
	ボンゴブローニイ（バン・トラック）	5,247	6,454	7,207	5,350	4,173	856,174
	タイタン・タイタンダッシュ	9,684	6,692	7,619	4,244	2,458	1,720,672
	その他	0	0	0	0	0	7,394,844
計		60,461	58,865	59,685	43,221	39,965	11,913,436
総合計		818,730	864,929	966,547	995,511	1,078,690	41,588,576
内数	ロータリーエンジン搭載車	50,813	27,837	23,363	13,833	8,237	1,988,230
	ディーゼルエンジン搭載車	89,685	71,515	124,224	86,807	92,004	4,636,047

地域別の活動

日本での販売活動 （2008年12月31日現在）

主要販売網

	販売会社数	店舗数
マツダ系	39	784
マツダアンフィニ系	15	69
マツダオートザム系	223	247
合　計	277	1,100

チャネル別販売車種

	乗用車														商用車					
	デミオ	ベリーサ	アクセラ	アテンザ	RX-8	ロードスター	プレマシー	ビアンテ	MPV	CX-7	キャロル	AZ-ワゴン	AZ-オフロード	スクラムワゴン	ボンゴ	ボンゴブローニイ	タイタン	タイタンダッシュ	ファミリアバン	スクラムバン・トラック
マツダ系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
マツダアンフィニ系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
マツダオートザム系	●	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●					●

販売台数推移

（台）

		2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
乗用車	登録車	196,413	196,011	175,954	169,701	162,221
	軽自動車	41,247	41,189	40,177	43,783	45,339
	計	237,660	237,200	216,131	213,484	207,560
商用車	登録車	33,285	38,916	38,574	28,668	25,088
	軽自動車	9,612	10,775	14,515	11,985	11,976
	計	42,897	49,691	53,089	40,653	37,064
合　計		280,557	286,891	269,220	254,137	244,624

（注）フォードブランド車は除く。
自販連の通達によりボンゴフレンディは2004年1月より、スクラムワゴンは2007年1月より商用車から乗用車に分類変更された。

車名別販売台数

（台）

車名		2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	
乗用車	キャロル	6,200	9,707	8,019	8,236	8,540	
	AZ-オフロード	443	578	679	568	561	
	AZ-ワゴン	25,799	25,674	27,922	29,214	31,327	
	スピアーノ	6,424	3,472	3,339	2,451	1,538	
	スクラムワゴン	—	—	—	3,314	3,373	※1
	デミオ	75,754	67,046	60,114	65,480	64,997	
	ベリーサ	12,810	16,352	12,859	13,850	11,910	
	プレマシー	6,590	28,883	26,887	26,130	21,881	
	アテンザ	18,717	17,208	12,257	7,663	15,853	
	アクセラ	29,917	26,332	24,210	22,978	16,646	
	ロードスター	1,646	3,657	4,067	3,845	1,858	
	RX-8	11,504	7,749	5,330	4,184	3,270	
	MPV	32,286	25,215	28,386	20,525	13,435	
	ビアンテ	—	—	—	—	11,037	
	CX-7	—	—	883	5,046	1,333	
	その他	9,570	5,327	1,179	0	1	
	計	237,660	237,200	216,131	213,484	207,560	
商用車	スクラム（バン・トラック）	9,612	10,775	14,515	11,985	11,976	※1
	ボンゴ（バン・トラック）	16,877	20,237	19,231	15,026	14,209	
	ボンゴブローニイ（バン・トラック）	2,033	2,925	3,257	2,309	1,599	
	タイタン・タイタンダッシュ	10,771	11,889	12,561	7,503	5,775	
	ファミリア（バン）	3,604	3,865	3,525	3,830	3,505	
	その他	—	—	—	—	—	
	計	42,897	49,691	53,089	40,653	37,064	
総合計		280,557	286,891	269,220	254,137	244,624	

（注）一部速報値を確報値に更新。　（注）フォードブランド車は除く。
※1 スクラムワゴンは2007年1月より商用車から乗用車に分類変更した。

輸出活動

輸出台数推移

（台）

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
乗用車	569,037	603,929	716,116	798,892	878,891
商用車	7,144	5,118	4,457	4,084	2,627
合計	576,181	609,047	720,573	802,976	881,518

仕向け地域別輸出台数

（台）

		2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
北米		189,097	202,007	286,202	289,072	271,787
ヨーロッパ		226,489	229,881	269,029	300,196	352,931
オセアニア		63,229	72,461	64,652	68,250	78,734
その他		97,366	104,698	100,690	145,458	178,066
	中近東	35,630	38,360	36,997	56,425	73,437
	アジア	26,605	24,388	15,342	13,912	38,435
	アフリカ	9,051	8,993	9,716	15,783	13,693
	中南米	26,080	32,957	38,635	59,338	52,501
総輸出台数		576,181	609,047	720,573	802,976	881,518

車種別輸出台数

（台）

	車名	海外名	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
乗用車	デミオ	Mazda Demio／Mazda2	8,896	9,117	9,030	56,753	139,200
	ファミリア／レーザーリデア	Mazda 323／Ford Laser Lidea	10,912	6,680	6,720	4,180	0
	プレマシー	Mazda Premacy／Mazda5	18,788	50,777	92,321	79,845	85,285
	アテンザ	Mazda6	125,201	122,652	126,945	105,335	136,304
	アクセラ	Mazda3	284,001	338,013	351,110	397,953	384,724
	トリビュート／エスケープ	Mazda Tribute／Ford Escape	16,313	8,196	501	300	440
	ロードスター	Mazda MX-5※1	23,153	25,264	43,758	33,870	21,625
	RX-8	Mazda RX-8	41,832	19,408	18,133	10,050	5,317
	MPV	Mazda MPV／Mazda8	38,201	22,582	5,895	353	406
	CX-7	Mazda CX-7	—	—	57,095	69,052	60,168
	CX-9	Mazda CX-9	—	—	4,608	41,201	45,422
	その他	Others	1,740	1,240	0	0	0
計			569,037	603,929	716,116	798,892	878,891
商用車	タイタン・タイタンダッシュ	Mazda T-Series／Mazda E-Series	562	220	260	200	21
	ボンゴ（バン・トラック）	Mazda E-Series	6,582	4,898	4,197	3,884	2,606
計			7,144	5,118	4,457	4,084	2,627
総合計			576,181	609,047	720,573	802,976	881,518

（注）海外生産用部品（KDセット）を除く。
※1 北米向けには「Miata」のサブネームがつく。

地域別の活動

北米

・1971年、マツダは米国に現地法人を設立し、米国でのマツダ車の販売を開始しました。また、1987年にはMMUC工場で現地生産を開始しました。1992年からはフォードと合弁会社としてオートアライアンス・インターナショナル（AAI）に名称変更し、米国でのマツダ車の現地生産を行っています。

・2008年6月にAAIで北米専用の「Mazda6」の生産を開始し、9月より本格的に販売しています。

・2008暦年の米国での販売台数は総需要減少の影響を受けて前年実績を下回りましたが、「Mazda6」が好評に受け入れられたことで、マツダ車のシェアは対前年0.2ポイント増となる2.0%となりました。

・メキシコでのマツダ車販売は引き続き好調で、3年連続で大幅増を続けています。

・2008年11月に開催された『2008年ロサンゼルス・モーターショー』で新型「Mazda3」を公開しました。カナダ、メキシコなどでは、今年の1月末から販売を開始し、米国では3月に本格販売を開始しています。

統括拠点

（2008年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
米　国	マツダノースアメリカンオペレーションズ（MNAO） Mazda North American Operations ※1	❶ カリフォルニア州アーバイン	1997年10月	—	自動車・部品の卸売販売、北米市場における技術動向などの調査・研究、デザインの開発、商品適合性評価	—
		❷ ミシガン州フラットロック				

※1「マツダモーターオブアメリカ,Inc.」「マツダカナダ,Inc.」「マツダ・モトール・デ・メヒコS. de R.L. de C.V.」「Plaza Motors Corp.（プエルトリコ）」を総称して「マツダノースアメリカンオペレーションズ（MNAO）」と呼んでいる。

生産拠点

（2008年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	マツダ車生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
米　国	❷ オートアライアンス・インターナショナル,Inc. AutoAlliance International, Inc.（AAI）	ミシガン州フラットロック	1987年　9月※2	3,234名	アテンザ	マツダ　50% フォード　50%
	❸ フォード　カンザスシティ工場 Ford Motor Kansas City Assembly Plant	ミズーリ州	2000年　6月	—	トリビュート	フォード　100%

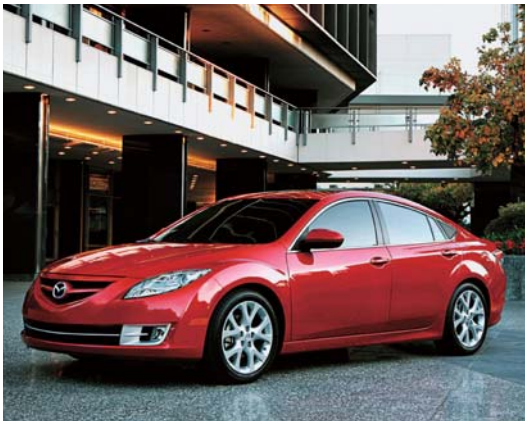
※2 マツダ モーター マニュファクチャリング USA コーポレーション（MMUC）としてマツダ車生産開始。1992年6月に現社名に名称変更。

販売拠点

（2008年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
米　国	マツダモーターオブアメリカ,Inc. Mazda Motor of America, Inc.	カリフォルニア州アーバイン	1971年　2月	929名	マツダ　100%
カナダ	マツダカナダ,Inc. Mazda Canada Inc.	オンタリオ州リッチモンドヒル	1968年　7月	131名	マツダ　100%
メキシコ	マツダ・モトール・デ・メヒコS. de R.L. de C.V. Mazda Motor de Mexico, S. de R.L. de C.V.	メキシコ・シティ	2004年12月	24名	マツダ　99% マツダモーターインターナショナル 1%

オートアライアンス・インターナショナル,Inc.



北米向け「Mazda6」（2008年発売）

生産台数

（2008年12月31日現在）（台）

		2005年	2006年	2007年	2008年
米　国	オートアライアンス・インターナショナル,Inc.	74,260	71,493	54,335	74,959
	フォード　カンザスシティ工場	40,677	15,043	23,785	15,907
合　計		114,937	86,536	78,120	90,866

販売台数

（2008年12月31日現在）（台）

	2005年	2006年	2007年	2008年
米　国	258,339	268,786	296,109	263,949
カナダ	77,867	81,007	86,659	84,974
メキシコ	769	7,495	16,604	21,997
プエルトリコ※	8,001	6,547	4,637	3,724
合計	344,976	363,835	404,009	374,644

※プエルトリコではPlaza Motors Corp.で販売している。

市場およびディストリビューター数

（2008年12月31日現在）

	市　場	ディストリビューター数	拠点数
北　米	4	4	859

主要販売車種

地　域	北　米			
市　場	アメリカ	カナダ	メキシコ	プエルトリコ
アクセラ	●	●	●	●
アテンザ	●	●	●	●
ロードスター	●	●	●	●
CX-7	●	●	●	●
CX-9	●	●	●	●
RX-8	●	●		●
プレマシー	●	●	●	●
トリビュート	●	●		●
Bシリーズ	●	●		●

地域別の活動

欧州 （2008年12月31日現在）

・マツダは1967年より欧州でのマツダブランド車の販売を開始し、1972年にはドイツに現地法人を設立しました。

・2000年頃より欧州主要国で販売網の再構築に着手しました。主要国のディストリビューターをマツダ直轄下に置き、販売・マーケティング活動の効率化や欧州での一貫した戦略・施策を推し進めています。

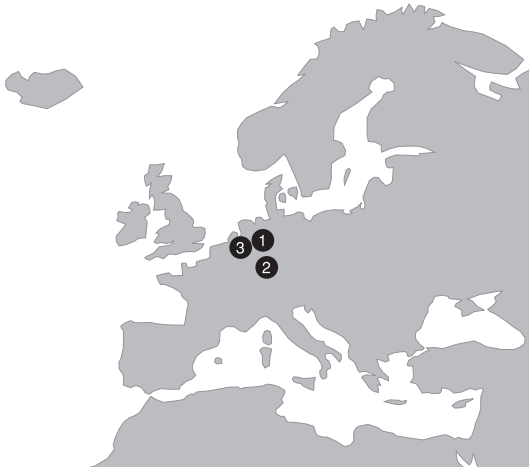
・2008年は新型「Mazda6」を導入しました。07年に導入した「Mazda2」とともに大きく販売増に貢献し、暦年の販売台数は34.0万台となり、1991年以来17年ぶりに過去最高記録を更新しました。

・2008年12月に開催された『ボローニャモーターショー』で新型「Mazda3」を公開しました。

・2008年10月にノルウェーの国家プロジェクト「HyNor」に向けて「マツダRX-8 ハイドロジェンRE」のモニター車を提供し、現地での実証実験を開始しました。

・2008年10月にオランダに直営販売統括拠点を設立しました。これにより、直営統括拠点は22拠点となり、40ヵ国をカバーしています。

・2009年3月よりMazda3の販売をドイツを始めとして順次開始しました。



統括会社

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	機　能	資本構成
ドイツ	❶ マツダモーターヨーロッパGmbH（MME） Mazda Motor Europe GmbH	ノルトラインウエスト ファーレン州レバークーゼン	1998年 3月	292名	事業所 販売	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V.　100%
	❷（European R&D Centre）	ヘッセン州オーバーウァゼル	1987年12月	92名	研究開発	―
ベルギー	❸ マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. Mazda Motor Logistics Europe N.V. （Vehicles and Parts Distribution Center）	アントワープ州ウィルブローク	1998年 8月	623名	事業所 物流、販売	マツダ　100%

販売拠点

（2008年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
ドイツ	マツダモータース（ドイツランド）GmbH Mazda Motors（Deutschland）GmbH	ノルトラインウエスト ファーレン州レバークーゼン	1972年11月	155名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
イギリス	マツダモータース UK Ltd. Mazda Motors UK Ltd.	ケント州ダートフォード	2001年 5月	101名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
フランス	マツダ オトモビルフランスS.A.S Mazda Automobiles France S.A.S	イヴリーヌ県 サン・ジェルマン・アン・レイ	2001年 2月	51名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
スイス	マツダスイスS.A. Mazda（Suisse）S.A.	プチランシー	2001年 2月	42名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
オーストリア	マツダオーストリアGmbH Mazda Austria GmbH	クラーゲンフルト	1981年 7月	110名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
スペイン	マツダオートモービルズエスパーニャ,S.A. Mazda Automoviles Espana, S. A.	マドリッド	2000年 2月	46名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
ポルトガル	マツダモトールデポルトガルLda. Mazda Motor de Portugal Lda.	リスボン	1995年 2月	23名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
イタリア	マツダモーターイタリア,S.p.A. Mazda Motor Italia S.p.A.	ローマ	1999年12月	60名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
ロシア	マツダモーターロシア,OOO Mazda Motor Russia, OOO	モスクワ	2005年12月	77名	マツダ　100%
デンマーク	マツダモーターデンマーク Mazda Motor Denmark	バラールップ	2003年 4月	―	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
ノルウェー	マツダモーターノルウェー Mazda Motor Norge	コルボン	2004年 4月	―	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店

販売拠点

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
スウェーデン	マツダモータースウェーデン Mazda Motor Sweden	クングスバッカ	2004年 4月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
アイルランド	マツダモーターアイルランド Mazda Motor Ireland	ダブリン	2006年 7月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
チェコ	マツダモーターチェコ Mazda Motor Czech	プラハ	2006年10月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
スロバキア	マツダモータースロバキア Mazda Motor Slovakia	ヴェルケー・レバーレ	2006年10月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
ベルギー・ ルクセンブルク	マツダモーターベラックス Mazda Motor Belux	ウィルブローク	2007年 4月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
ハンガリー	マツダモーターハンガリー Mazda Motor Hungary	ブダペスト	2008年 4月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパ N.V.　100%
クロアチア	マツダモータークロアチア Mazda Motor Croatia	ザグレブ	2008年 4月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパ N.V.　100%
スロベニア	マツダモータースロベニア Mazda Motor Slovenija	リュブリャナ	2008年 4月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパ N.V.　100%
ポーランド	マツダモーターポーランド Mazda Motor Poland Co., Ltd.	ワルシャワ	2008年 5月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
トルコ	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. メルケジ・ベルチカ・トゥルキェ・イスタンブル・シュベシィ Mazda Motor Logistics Europe N.V. Merkezi Belcika Turkiye Istanbul Subesi	イスタンブール	2008年 6月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
オランダ	マツダモーターネーデルランド Mazda Motor Nederland	ワディンクスフェーン	2008年10月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店

生産台数

（台）

		2005年	2006年	2007年	2008年
スペイン	フォードバレンシア※	35,928	29,245	14,235	—

※2007年6月に生産終了。

販売台数

（台）

	2005年	2006年	2007年	2008年
欧　州	271,549	306,698	311,247	339,969

市場およびディストリビューター数

	市　場	ディストリビューター数	拠点数
欧　州	41	29	2,343

主要販売車種

地　域	欧　州														
市　場	ドイツ	イギリス	オーストリア	イタリア	オランダ	スペイン	フランス	ベルギー	デンマーク	ポルトガル	スイス	ロシア	トルコ	フィンランド	ギリシャ
デミオ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アクセラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アテンザ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ロードスター	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
CX-7	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●
CX-9												●			
RX-8	●	●	●	●		●	●	●		●	●	●	●		●
プレマシー	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●
BT-50	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

地域別の活動

中国

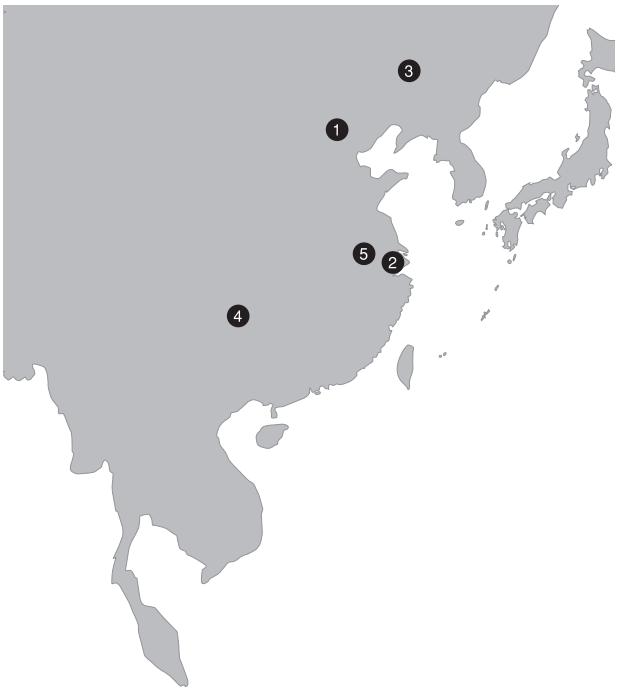
・マツダは2001年より本格的に中国市場に進出し、2007年には「生産」「販売」「商品」の基盤整備がほぼ完了しました。

・マツダ（中国）企業管理有限公司では、2つの販売チャネルである「一汽マツダ」「長安マツダ」を統括し、統一したブランド戦略を展開しています。

・Mazda6（日本名／アテンザ）、Mazda3（日本名／アクセラ）に続き、2008年1月から長安フォードマツダ汽車南京工場で生産したMazda2（日本名／デミオ）の販売を開始しました。

・2008年暦年の販売台数は前年比25.5%増となる12.8万台となりました。

・2009年春には新型Mazda6（中国名／Mazda6睿翼（Ruiyi））を導入しました。



統括会社・事務所

（2008年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	主な機能	資本構成
中　国	❶ マツダ株式会社北京事務所 Mazda Motor Corporation Beijing Representative Office	北京市 朝陽区	1985年 3月	7名	マツダ直営事務所	―
	❷ マツダ（中国）企業管理有限公司 Mazda Motor（China）Co., Ltd.（略称 MCO）	上海市 浦東新区	2005年 1月	30名	中国市場の事業統括	マツダ　100%
	❶ マツダ（中国）企業管理有限公司　北京分公司 Mazda Motor（China）Co., Ltd. Beijing Branch （略称 MCO-Beijing）	北京市 朝陽区	2007年11月	10名	MCO支社	―
	❷ マツダ（中国）企業管理有限公司　中国技術支援センター Mazda Motor（China）Co., Ltd. China Engineering Support Center（略称 MCO-CESC）	上海市 嘉定区	2005年 8月	70名	MCO支社・事務所・ワークショップ 技術動向などの調査、研究、およびR&D、購買、品質、サービス領域の技術支援	―

生産拠点

（2008年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	マツダ車生産開始時期	従業員数	主な生産品目	資本構成
中　国	❸ 一汽乗用車有限公司 FAW Car Co., Ltd.（略称 FCC）	吉林省 長春市	2003年 3月	―	アテンザ	現地　100%
	❹ 長安フォードマツダ汽車有限公司 Changan Ford Mazda Automobile Co., Ltd. （略称 CFMA）	重慶市	2006年 2月 （2001年 4月 長安フォード 設立）	5,980名	アクセラ	長安汽車 50% フォード　35% マツダ　15%
	❺ 長安フォードマツダ汽車有限公司 南京公司 Changan Ford Mazda Automobile Co., Ltd. Nanjing Company（略称 CFMA-Nanjing）	江蘇省 南京市	2007年10月	2,089名	デミオ	
	❺ 長安フォードマツダエンジン有限公司 Changan Ford Mazda Engine Co., Ltd.（略称 CFME）	江蘇省 南京市	2007年 4月 （2005年 9月 設立）	1,406名	自動車用エンジン	長安汽車 50% マツダ　25% フォード　25%

中国向け「新型Mazda6:中国名／Mazda6睿翼（Ruiyi）」

中国向け「Mazda2セダン:中国名／Mazda2劲翔（Jinxiang）」

販売拠点

（2008年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成など
中　国	一汽マツダ汽車販売有限公司 FAW Mazda Motor Sales Co., Ltd.（略称 FMSC）	吉林省 長春市	2005年 3月	264名	一汽乗用車　56% マツダ　40% 第一汽車集団　4%※1
	長安フォードマツダ汽車有限公司 販売分公司 長安マツダ事業部 Changan Ford Mazda Automotive Co., Ltd. Sales Branch Office, Changan Mazda Division（略称 CAM）	北京市 朝陽区	2007年 4月	144名	長安フォードマツダ汽車有限公司の販売部門

※1　2009年4月に資本構成が変更

生産台数（現地組み立て生産分）

（2008年12月31日現在）（台）

		2005年	2006年	2007年	2008年
中　国	一汽乗用車	55,758	46,640	57,661	65,670
	長安フォードマツダ汽車	―	3,490	40,087	39,695
	一汽海馬汽車※1	75,066	74,601	12,141	―
合　計		130,824	124,731	109,889	105,365

※2　一汽海馬汽車は2007年12月に契約終了

販売台数

（2008年12月31日現在）（台）

	2005年	2006年	2007年	2008年
中　国	133,778	126,063	101,900	127,846

ディストリビューター数

（2008年12月31日現在）

	市　場	ディストリビューター数	拠点数
中　国	1	2	212

主要販売車種

市　場	中国
デミオ	●
アクセラ	●
アテンザ	●
RX-8	●
プレマシー	●

地域別の活動

アジア・大洋州

・マツダは、1998年よりタイにおけるフォードとの合弁生産工場オートアライアンス（タイランド）（AAT）において、ピックアップトラックの現地生産を行っており、2008年末にはAATでの累計生産125万台を越えました。

・2007年10月にはAAT社での新乗用車工場建設を発表し、2009年7月に開所式を実施しました。今後マツダとフォードの小型乗用車の生産を開始する予定です。

・オーストラリアでは、1999年以降好調な販売を続けており、2008年は8.0万台と過去最高の販売台数を記録しました。またニュージーランドでも過去最高となる0.7万台を販売しました。

統括会社

（2008年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
タ　イ	❶ マツダサウスイーストアジア リミテッド Mazda South East Asia, Limited（MSEA）	バンコク	2005年 8月	11名	ASEAN市場の事業統括	マツダ　100%

生産拠点

（2008年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	マツダ車生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
台　湾	❷ 福特六和汽車股份公司 Ford Lio Ho Motor Co., Ltd.（略称 FLH）	中歴市	1987年 3月	1,300名	アクセラ、プレマシー、トリビュート	フォード　70% 現　地　30%
タ　イ	❸ オートアライアンス（タイランド）Co., Ltd. AutoAlliance（Thailand）Company Limited（略称 AAT）	ラヨーン県イースタン・シーボード工業団地	1998年 5月※1 （1995年11月設立）	3,957名	BT-50	マツダ　46% フォード　50% マツダセールス（タイランド）4%
フィリピン	❹ フォードモーターカンパニーフィリピン Ford Motor Company Philippines, Inc.	サンタ・ロサ	2004年 2月	―	アクセラ、トリビュート	フォード　100%

※1 乗用車工場を2009年7月に設立。

販売拠点

（2008年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
タ　イ	マツダセールス（タイランド）Co.,Ltd Mazda Sales（Thailand）Co., Ltd.	バンコク	1990年 6月	54名	マツダ 96.1% KKS　3.9%
インドネシア	PT. マツダ モーター インドネシア PT. Mazda Motor Indonesia	ジャカルタ	2006年 2月	19名	マツダ　99.96% MSEA　0.04%
オーストラリア	マツダオーストラリアPty Ltd. Mazda Australia Pty Ltd.	ビクトリア州マウントウエイバリー	1967年 4月	153名	マツダ　100%
ニュージーランド	マツダモータースオブニュージーランドLtd. Mazda Motors of New Zealand Ltd.	オークランド市マウントウエリントン	1972年 6月	26名	マツダ　100%

オートアライアンス（タイランド）Co.,Ltd.

Mazda BT-50

生産台数

（2008年12月31日現在）（台）

		2005年	2006年	2007年	2008年
台　湾	福特六和汽車	23,418	17,735	14,097	6,062
タ　イ	オートアライアンス（タイランド）Co.,Ltd.	35,003	43,570	51,886	48,238
マレーシア	アソシエーティッドモータース※1	1,458	540	190	148
フィリピン	フォードフィリピン	—	—	285	200
インド	スワラジマツダ※2	12,607	10,379	2,939	—

※1　マレーシアのアソシエーティッドモータースインダストリー社は2008年3月に契約終了。
※2　インドのスワラジマツダ社とは2005年8月に資本関係を解消。

販売台数

（2008年12月31日現在）（台）

	2005年	2006年	2007年	2008年
アジア（中国以外）	61,089	50,099	43,740	31,990
オセアニア	74,024	71,272	85,883	88,523

ディストリビューター数

（2008年12月31日現在）

	市　場	ディストリビューター数	拠点数
アジア（中国以外）※3	11	10	189
オセアニア	12	8	162

※3 インド除く。台湾含む。

主要販売車種

地　域	アジア							オセアニア	
市　場	台　湾	タ　イ	シンガポール	フィリピン	インドネシア	香　港	マレーシア	オーストラリア	ニュージーランド
デミオ	●		●			●		●	●
アクセラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アテンザ	●		●	●	●	●	●	●	●
ロードスター		●	●	●		●	●	●	●
CX-7			●		●	●		●	●
CX-9				●	●		●	●	
RX-8			●		●	●	●	●	●
プレマシー	●		●		●	●	●		
MPV						●			
トリビュート	●			●	●				
E-シリーズ						●			●
BT-50		●		●	●		●	●	●

地域別の活動

カリブ・中南米・中近東・アフリカ

マツダ事務所

（2008年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
アラブ首長国連邦	❶ マツダ中近東事務所 Mazda Representative Office（Middle East）	ドバイ	1982年3月	5名	販売店への販売・ サービス支援・指導業務	—

生産拠点

（2008年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	マツダ車 生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
コロンビア	❷ コンパニアコロンビアナアウトモトリスS.A.※1 Compania Colombiana Automotriz S.A.（CCA）	ボゴタ	1983年4月	757名	アクセラ、デミオ、 BT-50	マツダ　95% マツダモーター インターナショナル 5%
エクアドル	❸ マヌファクトゥラス アルマドゥリアス イ レプエストス エクアトリアノス S.A.（マレサ） Manufacturas, Armadurias y Repuestos Equatorianos S. A.（MARESA）	キト	1986年11月	—	BT-50	現地　100%
ジンバブエ	❹ ウィローベールマツダモーターインダストリーズ Willowvale Mazda Motor Industries（PVT）Ltd.	ハラレ	1980年7月	274名	アクセラ、タイタン、 BT-50	MOTEC　58% マツダ　25% Workers Trust　9% 伊藤忠商事　8%
南アフリカ	❺ フォードモーターカンパニーオブ サザンアフリカPty, Ltd. Ford Motor Company of Southern Africa（Pty.）Ltd.	プレトリア	1963年6月	—	アクセラ、BT-50	フォード　100%

※1　コンパニアコロンビアナアウトモトリスS.A.社は生産と販売を行っている。1983年にマツダ車組立生産を開始。

販売拠点

（2008年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
コロンビア	コンパニアコロンビアナアウトモトリスS.A.※1 Compania Colombiana Automotriz S.A.（CCA）	ボゴタ	1973年10月	757名	マツダ　95% マツダモーターインター ナショナル　5%

※1　コンパニアコロンビアナアウトモトリスS.A.社は生産と販売を行っている。1983年にマツダ車組立生産ー販売を開始。

生産台数

（2008年12月31日現在）（台）

		2005年	2006年	2007年	2008年
コロンビア	コンパニアコロンビアナアウトモトリスS.A.	2,839	3,664	5,620	4,159
エクアドル	マヌファクトゥラス アルマドゥリアス イ レプエストス エクアトリアノス S.A.（マレサ）	4,314	5,349	6,236	8,941
イラン ※2	バーマンモーター	10,585	12,135	3,342	—
ジンバブエ	ウィローベール	1,213	926	1,611	1,345
南アフリカ	フォードサザンアフリカ	4,951	6,115	6,035	5,260

※2 イラン バーマンモーターは2007年でノックダウン生産を終了。

販売台数

（2008年12月31日現在）（台）

	2005年	2006年	2007年	2008年
カリブ・中南米	32,633	39,770	56,927	49,763
中近東	39,674	40,223	55,399	68,120
アフリカ	15,875	18,967	21,905	26,016

ディストリビューター数

（2008年12月31日現在）

	市　場	ディストリビューター数	拠点数
カリブ・中南米	34	36	233
中近東	11	11	271
アフリカ	21	21	246

主要販売車種

地　域	カリブ・中南米						中近東				アフリカ	
市　場	コロンビア	チリ	ベネズエラ	エクアドル	グアテマラ	エルサルバドル	イスラエル	サウジアラビア	アラブ首長国連邦	シリア	ジンバブエ	南アフリカ
デミオ	●	●			●	●	●			●		●
アクセラ	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●
アテンザ	●	●		●	●	●	●	●	●	●		●
ロードスター		●					●	●	●			●
CX-7	●	●			●	●						●
CX-9	●	●		●		●		●	●		●	
RX-8		●			●							
プレマシー	●	●		●	●	●	●					●
E-シリーズ					●	●		●	●	●		
BT-50	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

経営計画

長期ビジョン

マツダの目標は、大規模な自動車メーカーになることではなく、ワクワクする所有体験を与えるマツダならではの商品とサービスを提供し続ける企業として、全てのステークホルダーの方々から喜ばれ信頼されることです。
わたしたちは10年先を見据えた長期ビジョンの実現と長期的な成長を持続するために「モノ造り革新」を中心とするビジネス構造改革を加速します。

信頼される社会の一員として、日本の自動車メーカーとして誇りをもち、
マツダならではの商品とサービスによりお客さまに喜びを提供する

ステークホルダー価値

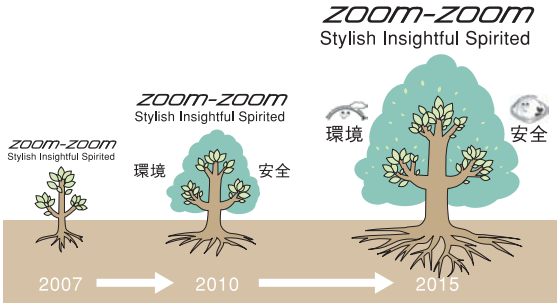
ブランド	プロダクト&テクノロジー	サプライ&マニュファクチャリング	人材

社会的責任経営

技術開発長期ビジョン

「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言」

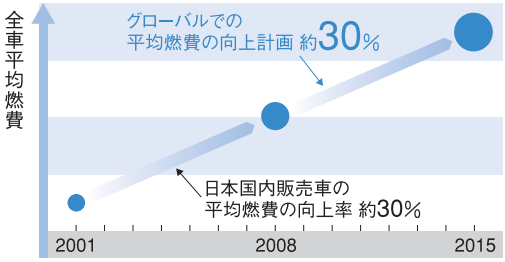
2007年3月、マツダはブランド価値を向上していく技術開発の長期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言」を策定しました。
これは「いつまでも『ワクワク』するクルマ、『見て乗りたくなる、乗って楽しくなる、そしてまた乗りたくなる』クルマを提供し、クルマも、人も、地球も、みんながワクワクし続けられるサステイナブルな未来の実現に向けてマツダが取り組むこと」を宣言したものです。
私たちは、この宣言にもとづき、走る歓びと環境安全性能が調和した、進化する“Zoom-Zoom”の世界を追求していきます。そしてマツダの“Zoom-Zoom”の木をもっと大きく育てていきます。



2015年までにマツダ車の燃費を30%向上

マツダはマツダ車を購入いただいた全てのお客さまに走る歓びと優れた環境安全性能を提供するという基本ポリシーのもと、2008年にCO_2排出削減に向けた取り組みについて発表しました。2015年までにパワートレインの一新と新型プラットフォームなどの導入により、グローバルで販売するマツダ車の平均燃費を30%向上させる計画です。さらに、将来の効率改善を目指してハイブリッドを含めた電気系デバイス技術の開発も加速していきます。また、排出ガスのクリーン化においても2008年度に超低排出ガス車「SU-LEV認定車」率が業界トップレベルの96%を達成（OEM車を除く）、「新グリーン税制（環境対応車普及促進税制）」に関しては、2009年度は約70%以上を目指しています。

平均燃費の向上



技術開発計画における主な取り組み

パワートレイン

	技術取り組み	達成目標
ガソリンエンジン	**新開発直噴ガソリンエンジン** 2011年からガソリンエンジンを一新、動力性能、燃費性能を大幅に改善	・動力性能：15～25%向上 ・燃費性能：12～15%改善
	フレックスフューエルエンジン E85まで対応可能なフレックスフューエルエンジンを2009年度に北米市場に導入	・E85（バイオエタノール85%燃料）対応
	アイドリングストップ マツダ独自のアイドリングストップシステムである「i-stop」を新型アクセラおよびビアンテに導入	・燃費性能：8～10%向上（国内）
ディーゼルエンジン	**新型クリーンディーゼルエンジン** 2011年から新型ディーゼルエンジンをグローバルに展開	・排出ガス性能の向上 ・燃費性能：20%向上
トランスミッション	**新型オートマチックトランスミッション** 2011年にマニュアルトランスミッション並みの走行感と燃費性能を向上させた新型オートマチックトランスミッションを市場導入	・走行性能：MT並みの走行感の実現 ・燃費性能：4～7%向上（国内）
ロータリーエンジン	**新開発ロータリーエンジン** 動力性能、燃費性能を大幅に改善した新型ガソリンロータリーエンジンを2010年代初頭に市場導入	・動力性能／燃費性能の劇的改善
	水素ロータリーエンジン ・マツダRX-8ハイドロジェンRE：ノルウェーのHyNor（ハイノール）プロジェクトに参画。2008年10月からモニター車の走行を開始し、2009年夏からノルウェーでリース販売を開始する ・プレマシーハイドロジェンREハイブリッド：2009年3月よりリース販売を開始。新開発のハイブリッドシステムを搭載、かつRX-8ハイドロジェンREから動力性能と航続距離を向上 ・3.0Lガソリンレシプロエンジン並みの動力性能と航続距離を400kmに向上させた新型ハイドロジェンRE搭載車の実用化を計画	・動力性能：40%向上（プレマシー） ・航続距離：200km（プレマシー） ・3.0Lガソリンレシプロエンジン並みの動力性能 ・航続距離：400km（新型ハイドロジェンRE）
ハイブリッド	**ガソリンハイブリッド車** ・2007年より、北米市場にトリビュートハイブリッドを導入 ・i-stopに始まる電気系デバイス技術開発を加速。将来を見越して減速エネルギー回生、ハイブリッドなど段階的に技術を積み重ねていく	・燃費性能100%向上

デザイン&プラットフォーム

	技術取り組み	達成目標
デザイン& プラットフォーム	**新型プラットフォーム** 2011年から段階的に展開する新型プラットフォーム採用車では、100kg以上の軽量化を目指す	100kg以上軽量化

車両技術

	技術取り組み	達成目標
セーフティ	**ヒューマン・マシン・インターフェース（HMI）／ダイナミクスセーフティ** 正しい認知・判断をサポートするHMIと、操作しやすく危険を回避可能なダイナミック性能など、マツダらしい“Zoom-Zoom”な安全技術を導入	・正しい認知・判断をサポートするHMI ・操作しやすく、危険を回避可能なダイナミック性能
	ITSによる渋滞・事故防止 政府、社会インフラと協力した安全への取り組みとして、広島地域でのITS実証実験を実施	・広島地域での実証実験 ・インフラ協調による運転支援システム
材料技術 生産技術	**バイオテックマテリアル技術（バイオプラスチック、バイオファブリック）** ・産学官連携で植物由来によるカーボンニュートラルなバイオプラスチックおよびバイオファブリックを開発し、2009年3月からリース販売を開始したプレマシーハイドロジェンREハイブリッドの内装に採用 ・2013年までに食糧と競合しないセルロース系バイオマスを原料としたバイオプラスチック技術開発を行い、自動車への実用化を計画	
	アクアテックペイント（水性塗装技術） スリー・ウエット・オン塗装をさらに進化させ、VOC排出量をさらに57%削減する革新的な水性塗装技術を2009年に導入、世界で最もクリーンな塗装工場を目指す	VOC排出量：57%削減
	バンパーリサイクル技術 ・2005年より、ディーラーなどで回収した損傷バンパーを、新車用バンパーの材料に再利用。デミオ、MPV、RX-8などに採用 ・2009年3月に、あらゆる使用済み自動車バンパーに関して、破砕から再生材製造に至るまでの一連の工程を自動化したリサイクル技術を開発	

環境問題への取り組み

マツダは、1992年にマツダの環境基本方針を定めた「マツダ地球環境憲章」を策定し、環境問題への取り組みを進めて参りました。2005年3月にはこれを社会的責任（CSR）の観点から見直して改訂を行い、グループ企業と一体となって地球環境保護に取り組む姿勢を表明しました。2006年には環境中期計画「マツダグリーンプラン2010」を策定し、取り組み項目と方針を明確化し、2010年度目標の達成に向けて着実に環境への取り組みを進めています。

マツダ地球環境憲章（1992年制定、2005年改定）

【環境理念】

「マツダグループは国内外すべての企業活動において、自然との調和を図りながら、地球環境の保護と豊かな社会づくりに貢献します」

【基本理念】

●私たちは地球にやさしい技術と商品を創造し、社会に提供します。
●私たちは資源やエネルギーを大切にし、環境を配慮した事業活動を行います。
●私たちは社会や地域と共に、よりよい環境をめざした活動をします。

マツダグリーンプラン2010 取り組み領域

1.環境を配慮した技術と商品の創造

①排出ガスのクリーン化
②燃費向上（CO_2低減）
③車両の軽量化
④自動車騒音の低減
⑤代替燃料車の開発
⑥環境負荷物質使用量の低減
⑦車室内VOC（揮発性有機化合物）の低減
⑧自動車リサイクルの推進（開発段階）

2.資源・エネルギーを大切にする活動

⑨廃棄物の低減
⑩温暖化防止
⑪自動車リサイクルの推進

3.クリーンさを追求する事業活動

⑫VOC排出量低減

4.事業活動の仲間と共に、よりよい環境づくり

⑬購買取引先と活動充実
⑭販売会社の環境保全活動推進
⑮部品販売会社の環境保全活動推進
⑯環境啓発活動の推進

5.社会や地域と共に、よりよい環境づくり

⑰社会とのコミュニケーション推進
⑱社会貢献活動の推進

環境技術（低燃費・低排出ガス）

i-stop（アイ・ストップ）

直噴エンジン技術を活用した、マツダ独自のアイドリングストップシステムです。再始動にわずか0.35秒（AT車）しかかからないため、自然なドライビングフィールを提供します。国内では2009年より、新型アクセラ及びビアンテに搭載しています。

直噴ガソリンエンジン

マツダの直噴エンジン「DISI」シリーズは、霧状のガソリンをシリンダー内に直接噴射し、均質燃焼を行うことにより、高出力と低燃費を高次元で実現。2005年以降MPVやプレマシーなど様々な車種に搭載され、お客様に高い環境性能と走る歓びを提供しています。

クリーンディーゼルエンジン

「MZR-CD2.2」は、マツダが独自開発した構造を持つDPF（Diesel Particulate Filter）の採用により、ディーゼルエンジン特有のスス（PM）を効率よく燃焼処理することに成功。欧州の厳しいエミッション規制である「Euro5」に適合する環境性能と、マツダらしい走りの歓びを調和させたクリーンなディーゼルエンジンです。

ミラーサイクルエンジン＋CVT

自然吸気MZR1.3L「ミラーサイクル」エンジンを新開発し、2007年7月から国内で発売した新型デミオに搭載しました。またマツダ車としては初めてCVT（自動無断変速機）との組み合わせで10・15モード燃費23km/Lを実現しています。

ハイブリッドエンジン

マツダは、ガソリンエンジンと電気モーターを組み合わせたハイブリッドカーの開発に取り組んでいます。2007年夏にはフォードと連携し「トリビュートハイブリッド」を米国で発売しました。MZRエンジンとハイブリッドシステムの組み合わせにより、クリーンな排出ガスと優れた燃費性能、3.0L並みの力強く滑らかな加速を実現しています。

触媒技術

マツダは、ディーゼルエンジン特有のスス（PM）を効率良く後処理する「PM燃焼触媒」や希少な貴金属の使用を大幅に削減しながらも、排ガスの浄化性能と高い耐久性を同時に実現する「シングルナノ触媒」の開発など、環境に優しいサステイナブル（持続可能）な社会を実現する手段の一つとして、触媒技術の開発を推進しています。

水素ロータリーエンジン車

マツダは早くから循環型のエネルギーとして将来有望な水素に注目し、CO_2を全く排出しない「水素ロータリーエンジン」を搭載した水素自動車の開発を続けてきました。2006年2月に水素ロータリーエンジンを世界で初めて実用化し、「RX-8ハイドロジェンRE」としてリース販売を開始。さらに2009年3月には、ハイブリッドシステムの採用により走行性能や航続距離を大幅に向上した「プレマシー ハイドロジェンREハイブリッド」の国内リース販売を開始しています。

HyNor（ハイノール）

HyNor（Hydrogen Road of Norway）とは、オスロ～スタンバンゲル間を結ぶハイウェーの各拠点に水素ステーションを設置し、全長580kmを水素自動車で走行可能にすることを目指したノルウェーの国家プロジェクトです。マツダとHyNorは、水素燃料と水素自動車の実用化を促進する目的で協力していくことに合意し、2007年11月に調印式を行いました。今後、「RX-8ハイドロジェンRE」を順次HyNorに納入する予定です。

バイオテクノロジー（マツダバイオテックマテリアルの開発）

マツダは、植物由来の材料からなる自動車関連商品の材料を「マツダ バイオテックマテリアル」というブランドネームで総称し、研究開発を進めています。2006年以降、業界初の高耐熱・高強度なバイオプラスチックの開発や、植物由来100%の繊維からなる世界初の自動車用シート表皮の開発に成功しました。これらの材料は「プレマシー ハイドロジェンREハイブリッド」の内装部品に採用されています。また現在、食糧と競合しないセルロース系バイオマスを原料としたバイオプラスチックの開発を行っており、産学官連携で2013年までに自動車への実用化を目指しています。

※ 写真の他、リアシート表皮、水素タンクカバーにもバイオテックマテリアルを使用

自動車リサイクルの推進

バンパーtoバンパー技術

マツダは自動車の樹脂部品のリサイクルに積極的に取り組んでおり、損傷バンパーを素材に戻して再び新品バンパーの素材として利用する業界初の「バンパーtoバンパー」技術を確立しています。2005年3月生産のRX-8から導入を開始し、現在では幅広い車種へ展開しています。2009年3月には、これまでは難しいと考えられていた異なるメーカーの廃棄バンパーの同時処理や、金属類等の除去の自動化を実現し、より効率的なリサイクル工程を世界で初めて開発しました。

生産工程での環境負荷低減

従来からマツダは人と環境に優しいクリーンな工場を目指し、揮発性有機化合物（Volatile Organic Compounds：以下VOC）やCO_2、廃棄物や製造にかかるエネルギーを大幅に削減する技術開発に取り組んでいます。

スリー・ウエット・オン塗装

スリー・ウエット・オン塗装とは、「中塗り」「着色ベース」「クリア」の3層をそれぞれ乾燥させないままウェットな状態で塗り重ね1回の焼付乾燥で仕上げることにより、従来の塗装方法に比べVOCの排出量を45%、CO_2の排出量を15%削減した塗装技術です。マツダの国内のすべての工場に導入しています。

アクアテック塗装

マツダは、VOCとCO_2の排出量が世界で最も低レベルな水性塗装技術「アクアテック塗装」の開発に成功しました。この塗装技術は、独自の塗料や生産技術の開発により、CO_2の排出量を増やさずVOCの排出量を57%削減。ボディ面積あたりのVOC排出量をわずか15g/m^2に抑える革新的な水性塗装技術です。マツダはこの「アクアテック塗装」技術を2009年6月に宇品第1工場へ導入し、世界で最もクリーンな塗装工場を目指します。

安全への取り組み

マツダは安全性能確保をクルマ造りの基本の一つと考え、さまざまな技術や装備の開発に努めています。独自の「安全ポリシー」を掲げ、世の中の安全技術よりもさらに高いレベルの安全性能を追求し、研究開発を重ねています。万が一事故が発生した際に乗員の被害を軽減する「パッシブセーフティ技術」や交通事故の発生を予防する「アクティブセーフティ技術」など様々な観点から安全技術の開発に取り組んでいます。また、最先端の情報通信技術を用いて、道路と車両とを情報ネットワークで結ぶことによって交通事故や渋滞などの交通道路問題の解決を目指す交通システム「ITS（Intelligent Transport Systems:高度道路交通システム）」にも産学官で連携して取り組んでいます。

安全ポリシー

「安全は自動車による心豊かな生活を支える基本要件である」との認識のもとに、

1. お客さまの自動車の使い方と使用される社会の交通環境を研究する
2. 安全技術の追求を行い、お客さまにとって最良の技術を適切に商品に反映する
3. 安全コミュニケーション（商品・技術、安全啓発）を通して、安全な社会づくりに貢献する

パッシブセーフティ技術（万一の事故の際に乗員を保護）

高剛性・安全ボディ「MAGMA※1」

高剛性・安全ボディ「MAGMA」は、ボディ前後のクラッシャブルゾーンで衝撃を分散・吸収し、フロア、サイド、ルーフをH型構造で強固に組み合わせたトリプル構造でキャビンの変形を抑制するマツダ独自の技術です。新型マツダ6（日本名：マツダアテンザ）が欧州の衝突安全評価「ユーロNCAP」の2009年新評価システムで最高ランクである5つ星を獲得するなど、世界中で高く評価されています。

※1 MAGMA= Mazda Geometric Motion Absorptionの略

SRS※2カーテン&フロントサイドエアバッグシステム

カーテンエアバッグは側面衝突時、サイドウインドーやピラーを覆うように展開し、乗員の頭部などに加わるダメージを軽減します。サイドエアバッグは、フロントシート側面から展開するエアバッグで乗員の胸部の保護に効果があります。

※2 SRS=Supplemental Restraint System（乗員保護補助装置）

クラッシャブルブレーキペダル

前面衝突時にブレーキペダルが室内側に突き出ることを防ぎ、ドライバーの下肢への障害を軽減します。

フロントシートアクティブヘッドレスト

追突されて後方から衝撃をうけた際に、乗員の体がシートバックに押し付けられる力を利用して、ヘッドレストを前方に移動させます。これにより乗員の頭部を早期にしっかり支えて頚部に加わる負担を軽減します。

■ アクティブヘッドレスト作動イメージ

ショックコーンアルミボンネット

万が一歩行者の頭部がボンネットにあたった時の傷害を軽減するため、ボンネット裏側にあるリブ構造を変更し、軽量アルミ製ボンネットのインナーパネルに多数のくぼみを設置して、エネルギー吸収効率を高めた「ショックコーンアルミボンネット」を開発し、RX-8やロードスターに採用しています。またその他の車種では、ボンネットとエンジンの隙間を拡大、さらにボンネットの衝撃吸収効率を高めるカウルトップ構造を採用しています。

プリテンショナー&ロードリミッター機構付フロントシートベルト

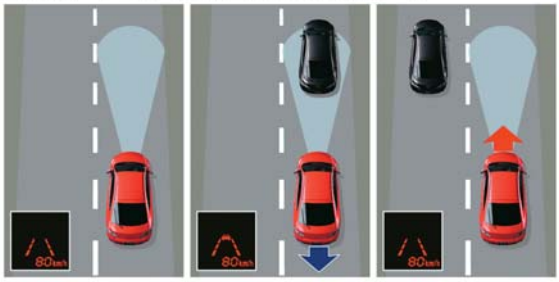
プリテンショナーは、前方からの強い衝撃をうけた時、衝突初期段階で自動的にベルトを巻き取り、乗員の前方移動を抑制します。ロードリミッターは、拘束後にベルトを適切に緩めて乗員の胸部への負担を軽減します。

アクティブセーフティ技術（事故を未然に防止）

マツダレーダークルーズコントロールシステム

先行車の速度や車間距離をレーダーセンサーで計測し、あらかじめ設定しておいた車間距離を保つよう、加速・減速を自動制御し、設定速度を上限として先行車への追従走行を可能にします。先行車がいない場合には、設定速度による定速走行を行い、高速道路などでのドライバーの負担の軽減を行います。

■ マツダレーダークルーズコントロールシステム効果イメージ

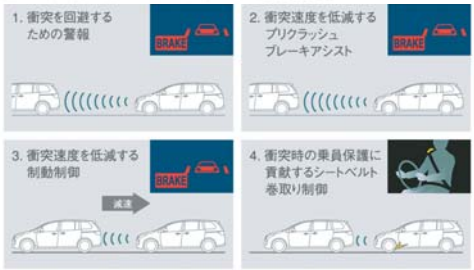


設定速度で定速走行　先行車の速度に減速　設定速度まで加速

マツダプリクラッシュセーフティシステム

レーダーセンサーで前方の車や障害物などを認識し、衝突する危険があると判断した際にはブザーや警告灯で警告。さらに必要に応じて、プリクラッシュブレーキシステムで自動的にブレーキを作動させ、衝突速度を低減、またシートベルトの早期巻き取りも同時に行い、乗員の拘束力を高めて衝突被害の軽減に貢献します。

■ マツダプリクラッシュセーフティシステム効果概念図



AFS（アダプティブ・フロントライティング・システム）

スピードとハンドル操作に合わせて、ドライバーが進みたい方向にヘッドライトのロービーム照射軸を左右に回転させます。夜間走行中のカーブや交差点などでの視界、視認性を向上させ、安全走行をサポートします。またオートレベリング機能を組み合わせることにより、車両の姿勢を感知して安定した配光を確保します。

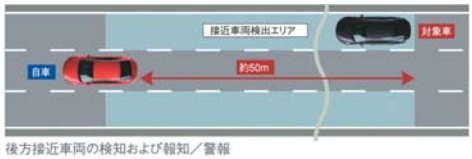
ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム（DSC）（横滑り抑制機構）

4輪個別の制動力制御とエンジントルク制御により、車両の横滑りを抑制します。滑りやすい路面でのコーナリングや、危険回避のためのステアリング操作時などに安定した走行姿勢を保つとともに、走行状況に応じた高精度な制御を行い、自然な車両コントロール性・挙動を提供します。

リアビークルモニタリングシステム（RVM）

リアビークルモニタリングシステム（RVM）は、高速走行時に、後方から接近する車両を検出し車線変更により衝突の危険性がある場合には、ドライバーに警報を発して注意を喚起する自立型運転支援システムです。2008年1月に発売した「新型アテンザ」に採用しています。

■ リアビークルモニタリングシステム効果イメージ



後方接近車両の検知および報知／警報

ロール・スタビリティ・コントロールシステム（RSC）

ロール・スタビリティ・コントロールシステム（RSC）は、横滑りを制御するDSCや自動車の発進・加速時のタイヤの空転を防止するTRC（Traction Control System）と協調して、車両運動をロール方向まで感知して、適切にブレーキをかけることで車両を制御するシステムです。北米を中心に販売している、新型CX-9に搭載しています。

駐車支援システム

フロントグリル内、リアゲート部、左ドアミラーに内蔵されたカメラの映像に、ステアリングの操作角度から算出された予想進路を合成して画面に表示します。後方やバンパー付近など直接目視で捉えにくい部分の視覚情報をアシストし、音声案内を行って駐車動作を支援します。狭い路地での運転や巻き込みの確認、脱輪防止にも役立ちます。

高度道路交通システム（ITS）

ITS（Intelligent Transport Systems:高度道路交通システム）とは、最先端の情報通信技術を用いて、道路と車両とを情報ネットワークで結ぶことによって交通事故や渋滞などの道路交通問題の解決を目指す交通システムです。2009年2月に行われた合同実証実験「ITS-Safety 2010」では、各メーカーとのITS車載器の互換性やシステムの効果の確認を行うなど、本格的な実用化に向けて開発を進めています。

「マツダMPV」ITS車載器搭載車両

先進安全技術（ASV）

ASV（Advanced Safety Vehicle）とは、1991年より国土交通省が主体となって進めているプロジェクトで、先進技術を利用しより高度で広範囲な安全運転の支援を実現することを目的としています。マツダはこのプロジェクトに第1期より参画しており、「リアビークルモニタリングシステム」など様々な先進安全技術を実用化しています。現在は、車々間通信を利用した安全運転支援システムの研究開発を進めており、2008年3月より先進安全自動車「マツダASV-4」の公道実験を行っています。

先進安全自動車「マツダASV-4」

社会貢献活動

地域に根ざす「良き企業市民」として

グローバルに活動をしているマツダにとって、それぞれの地域のニーズに即した社会貢献を、積極的かつ継続的に実行することは、重要な課題です。これは、「地域社会はマツダグループの存在基盤であり、地域の人々に喜ばれ、人々と感動を分かち合い、手を携えていく社会貢献活動こそ、良き企業市民としての大切な役割である」と考えるからです。

社会貢献の考え方

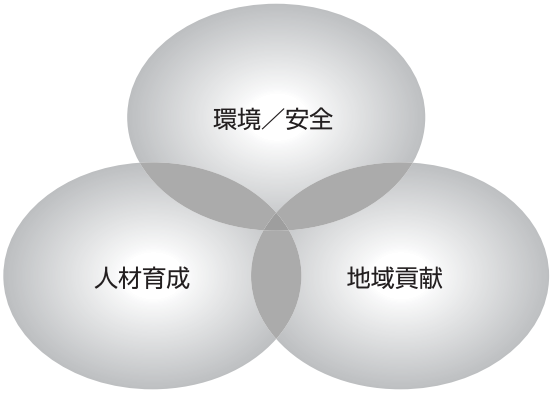
創業以来、地域に根ざした経営を追求してきたマツダでは、グループ全体として、また事業拠点ごとに、周辺地域の活性化に努めています。

こうした考えに基づいて、社内関係部門やグループ会社の代表委員で構成する「マツダ地域貢献委員会」を設立。マツダグループで取り組む活動の方針や内容を同委員会で決定し、地域貢献推進委員がその活動を組織的に展開し、推進しています。

また、日本各地、世界各国にある事業拠点周辺での活動にとどまらず、現地のニーズや、社会の持続的な発展に貢献するため、自動車メーカーとして社会から期待されている活動、今まで継続的に進めてきた活動、マツダらしさ、マツダグループの社会における責任など、様々な視点から重点領域を検討し、2009年から、新たに「環境／安全」「人材育成」「地域貢献」の3つの柱をグローバルな社会貢献の活動方針として設定し、より積極的に、地域に根ざした活動を展開していきます。

社会貢献活動方針

マツダは、「環境／安全」「人材育成」「地域貢献」の3つを社会貢献活動の柱とし、良き企業市民として、地域に根ざした活動を推進していきます。



マツダの社会貢献活動

マツダボランティアセンター

マツダボランティアセンターは、マツダおよびグループ企業の社員によるボランティア活動を支援する目的で1996年に設立しました。地域清掃や環境美化、福祉イベントへの協力など幅広いジャンルでボランティアを実施しています。

海外援助米ボランティア活動

マツダスペシャリストバンク

1994年に設立したマツダスペシャリストバンクでは、マツダおよびグループ企業の社員の中で、専門的な知識・技術・技能や長年培ってきた特技・趣味を持つ人材を募って登録しておき、地域からの様々な要請に応えて派遣しています。

マナー講座

南アフリカ

1990年に「マツダ自然保護基金」を設立し、野生生物の保護、環境教育、技術養成、環境マネジメントや雇用創出に助成を行っています。

南アフリカでの自然保護活動

マツダモーターヨーロッパ

マツダモーターヨーロッパでは、欧州全域で、家族と共に生活することができない子どもたちを支援しているNGO団体「SOSチルドレンビレッジ」と連携し、チャリティー活動を行っています。

欧州チャリティー活動

（2008年12月31日現在）

マツダ財団　http://mzaidan.mazda.co.jp/

科学技術の振興と青少年の健全育成のための助成等を行い、世界の人びとが共に繁栄を分かち合い、心豊かに生きられる社会づくりに寄与する目的で設立しました。
循環型社会の構築や市民活動の活性化に寄与する研究等への助成を中心に、「科学体験」に関する研究会等の助成や地域に密着した市民活動を支援しています。その他、青少年の科学離れへの対応として、小中学生や高校生を対象に科学にわくわくする機会を提供し、「科学するこころ」を養うことを目指した「科学わくわくプロジェクト」事業を広島大学と協同で、子どもたちの創意工夫を育む合宿事業を広島市の財団・企業等と連携して実施しています。また、広島地区の複数大学での寄付講義や講演会も行っています。

設　立	1984年10月	主務官庁　文部科学省
基本財産	10億円	
役　員	理事長　山内 孝、理事12名、監事2名	
所在地	〒730-8670　広島県安芸郡府中町新地3-1 マツダ（株）内	
連絡先	Tel: 082-285-4611／Fax: 082-285-4612	
主な事業実績（累計）	研究助成 766件、10億6548万円　事業助成 631件、1億6603万円 合計 1,397件、12億3150万円 ・講演会の開催　27回実施　・大学寄付講義　5大学で実施	

「感動塾・みちくさ」：
子どもたちが、身近な生活の中にあるものを題材として、2泊3日の生活を通じて仲間づくりを行い、協力・創意工夫することにより、未知なる物への興味を喚起し感動する心を育む事業です。（財）広島市ひと・まち　ネットワーク、（株）損害保険ジャパンとの共催です。

ローボートツーリングへ漕ぎ出す子どもたち

科学体験・科学教室：
マツダ財団は、青少年にものづくりや科学体験の素晴らしさを伝える活動に取り組んでいる地域の市民活動団体や大学・研究機関を支援しています。

近畿大学 旗手教授主催「こども鋳物教室」で鋳型づくりに挑戦！

マツダ財団 USA　http://www.mazdafoundation.org/

良き企業市民として米国社会に貢献することをねらいとして設立され、若者の識字率能力の向上や高等教育、州立、国立公園の環境保護、異文化交流、医学研究に関わる支援に力を入れています。

設　立	1990年9月
基　金	900万ドル
役　員	理事長　ジェームズ・J・オサリバン他、理事4名
所在地	1025 Connecticut Ave., NW, Suite 910, Washington, DC20036
事業実績（累計）	約620万ドル

「シューズ・ザット・フィット」：子どもへの靴の寄贈

マツダ財団 ニュージーランド　http://www.mazdafoundation.org.nz/

ニュージーランドの環境、文化、教育活動を行う個人や団体に援助を行うことを目的に設立。入院中の児童への学習用コンピュータ提供、国の環境保護プロジェクト支援、文化イベント助成、学校への設備提供なども行っています。

設　立	2005年11月
基　金	当初基金　15万NZドル
役　員	理事長　アンドリュー・クリアウォーター、他Directors 4名
所在地	70 Plunket Avenue, Wiri, Manukau City, Auckland 1730, New Zealand
事業実績（累計）	約66万NZドル

「ツリーメンダス・スクール・メイクオーバー」：
小学校での植林活動

マツダ財団 オーストラリア　http://www.mazdafoundation.org.au/

青少年の教育、科学技術振興、自然環境保護への助成を行い、地域社会（オーストラリア）の人々の心豊かな生活に寄与することをめざして、設立しました。以来、マツダオーストラリア社だけでなく、マツダ車のディーラー、オーストラリア各地の第三者からの寄付により様々なプロジェクトや活動を支援しています。

設　立	1990年8月
基　金	当初基金50万豪ドル
役　員	理事長　ダグ・ディクソン他、Directors 6名
所在地	385 Ferntree Gully Road, Notting Hill, Victoria 3149, Australia
事業実績（累計）	450万豪ドル

「メルボルン・ロイヤル・チルドレンズ・ホスピタル」の活動

マツダ財団 コロンビア　http://www.mimazda.com/

1990年の設立以来、コロンビア国内で教育と文化活動に助成を行ってきました。物理学、数学、音楽分野などの大学院教育への奨学金の提供やクラシック音楽コンサートのサポート、また教育においては中世古典の研究プロジェクトなどをサポートしています。

設　立	1990年12月
基　金	900万ドル
役　員	社長 他、社外 4名
所在地	Calle 13 No. 38-54　Bogota, Colombia
事業実績（累計）	7,080 コロンビアペソ

財団の援助を受けたバイオリンのソリストのコンサート

ブランド戦略の展開

マツダは、1998年以降、一貫してブランド戦略を重要な経営戦略として位置づけています。
1998年4月にマツダブランドが全世界で目指すべき方向性を規定した「ワールドワイドブランドポジショニング（WWBP）」を策定し、マツダブランドの個性とこれからマツダが目指すべき方向を明確にし、これに基づいたブランド戦略を1999年2月より世界各国の市場で本格的に展開してきました。

「ワールドワイドブランドポジショニング」WWBP

ブランドDNA

人格／Personality
- ○ センスの良い／Stylish
- ○ 創意に富む／Insightful
- ○ はつらつとした／Spirited

商品／Product
- ○ 際立つデザイン／Distinctive Design
- ○ 抜群の機能性／Exceptional Functionality
- ○ 反応の優れたハンドリングと走行性能／Responsive Handling and Driving Performance

ブランドメッセージ: Zoom-Zoom（ズーム・ズーム） *日本語の「ブー・ブー」（車が動くときの音）を意味する英語

創造性と革新性で、子供の時に感じた動くことへの感動を愛し持ち続ける人々に、「心がときめくドライビング体験」を提供する

WWBPは、グローバルで統一されたマツダブランドの個性や方向性を規定したもので、マツダのブランドのDNA（核）を「人格／Personality」と「商品／Product」の2つの属性にわけて規定しています。
ブランドDNAの「人格／Personality」はお客さまに抱いて欲しいブランドイメージを、「商品／Product」は商品がもつ特徴を示しています。

2001年よりマツダブランドを端的に表現するブランドメッセージとして、「Zoom-Zoom（ズーム・ズーム: 子供の頃に感じた動くことへの感動）」を全世界のすべてのコミュニケーション領域で展開しています。

このブランド戦略に基づいた商品を、2002年のアテンザ（海外名／Mazda6）発売以来、順次世界の主要な市場に導入し、2007年のデミオ（海外名／Mazda2）からは更に進化を遂げた第2世代目のモデルを発売しており、世界のお客さまから好評をいただき、各国の有名メディアやジャーナリストが主催する数々の賞を受賞しています。

また2008年6月には、「グローバル・ビジュアル・アイデンティティ」を導入し、マツダブランドの個性や存在感を適切に表現するための視覚的要素を確定しました。「グローバル・ビジュアル・アイデンティティ」を通じて、全世界の様々なメディアへ一貫したブランドイメージを発信し、お客様により強くマツダブランドを感じていただくと共に、ブランド価値の更なる向上を目指します。
導入以降、テレビコマーシャルやポスターなどの様々な広告宣伝媒体やモーターショーのスタンドデザインなどで「グローバル・ビジュアル・アイデンティティ」を展開しています。

今後もこの戦略を継続し、時代や社会の状況に適切に対応しながらマツダブランドの深化／進化を継続していきます。

社員 （2009年3月31日現在）

従業員数

（単位：人）

		従業員数		平均年齢	平均勤続年数
		技能系	事務・技術系		
単体	男性	11,162人	9,432人	38.6歳	16.8年
	女性	523人	1,181人	33.0歳	10.7年
	合計	22,298人		38.2歳	16.3年
連結	合計	39,852人		ー	ー

※出向者1,103名を含む。
技能系には医務系も含む。

近年の主な人事施策

次世代認定マーク「くるみん」

プログラム名	内　容	開始時期
ワークライフバランス充実のための10施策	社員のワークライフバランスを一層充実させるため、柔軟性ある勤務制度の拡充など10の施策を順次実施します。これにより育児・介護と就業の両立および社員のキャリア開発を積極的にサポートしていきます。	2008年 8月
フィジカル チャレンジサポートデスク	ダイバーシティの確保を通じ、気づきと他者理解を通した人材育成「共育」を推進し、障がいを持つ方が障がいを乗り越えて活躍できる職場環境づくりを進めるためのカウンセリング、就業環境の整備を推進する機能を設けました。	2008年 8月
Mazda Way	Mazda Wayとは、仕事を進める上で大切にすべき7つの考え方（誠実、基本・着実、継続的改善、挑戦、自分発、共育（ともいく）、One Mazda）です。マツダグループ全員が日々実践することでMazda Wayをマツダの文化へと高め、社員一人ひとりがいきいきと働き、さらにグローバルに活躍する強い企業を目指しています。	2008年 4月
早くかえろう運動	間接系職場を対象に、「仕事の効率化」を進めることで現在の長時間労働を改善し、社員一人ひとりが健康でイキイキと創造性を持って働ける環境構築を目指し、労使で実施しています。	2007年 7月
次世代認定マーク「くるみん」を取得	次世代育成支援対策推進法に基づいた子育て支援のための取り組み、実績が認められ、厚生労働省の次世代認定マーク「くるみん」を取得しました。	2007年 5月
エキスパート・ファミリー制度	保有能力・経験などの基準を満たした希望者を、定年退職日の翌日から再雇用し、技能・技術の伝承や、スペシャリストとしての活躍を行う制度です。フルタイム勤務を基本とし、1年単位で契約更新し、最長法定雇用年齢（最大65歳）までの雇用が可能です。	2006年 4月
確定拠出年金制度	個人の成果に応じて拠出される掛金を社員一人ひとりが将来の生活設計を考えて主体的に長期運用を行い、60歳以降で年金および一時金として受け取る制度です。	2004年 7月
フリーエージェント（FA）制度	キャリア開発を支援する施策のひとつで、社員が自己のこれまでのキャリアを基にチャレンジしたい領域や部門の門を叩く制度です。社員一人ひとりがキャリア開発に取り組み、キャリアプランを深く考えてもらうことが狙いです。	2004年 1月
事業所内保育施設マツダわくわくキッズ園	子育てを行う社員が安心して仕事ができるよう設置した社内保育施設です。 長時間対応・一時保育・手作り給食などの特長の他、体調不調児室も完備しています。2005年4月に定員を40名に増やし、2006年3月には運動場も完成しました。	2002年 4月
マツダフレックスベネフィット	選択型の福利厚生制度。あらかじめ定められたポイントの範囲内で社員個人が選んだ福利厚生メニューの補助が受けられるしくみです。 マツダは福利厚生会社の法人会員となっており、社員はポイント利用とは別にホテルやレジャー施設などの関連施設を安価に利用できます。	2001年10月
女性相談・人権相談デスク	'98年設置の女性相談窓口に加え、全社員を対象にした人権相談の受付、および人権問題の調査と解決を推進する機能を設けました。	2000年10月
スーパーフレックスタイム勤務	個々人の業務と私生活の調和を図りながら業務の成果をあげていく目的で導入した、コアタイムのないフレックスタイム制度です。	2000年10月

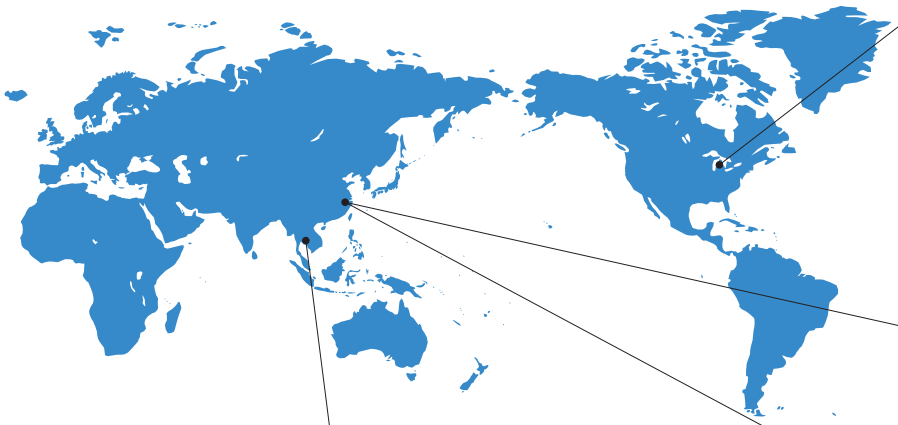
主な社員教育プログラム

プログラム名	内　容	備　考
事務技術系教育（役割研修、ビジネススキル研修）	事務・技術系全社員を対象として、ビジネススキル（業務遂行能力、問題解決能力、人間関係能力、等）の向上や業務取組み姿勢の向上を目的としています。	2008年度受講実績 ビジネススキル研修6コース、約700名が受講
技能系教育（役割研修、リーダー研修）	技能系社員を対象として、部門主体の教育と連携を取りながら、個人個人の成長とチームとしての組織力を発揮できる人材育成を目的としています。	2008年度受講実績 リーダー研修4コース、約600名が受講 役割研修4コース、のべ約860名が受講
MBLD（マツダ・ビジネスリーダーディベロップメント）	グループ全社員が参加するプログラムで、①経営の意志の伝達、②ビジネスプランの確実な推進のサポート、③長期ビジョン実現に向けた社員のマインド変革、の三点を目的として実施しています。	2000年7月開始 過去8回（毎年1回）実施
GLP（Leading Mazda 21）	「グローバルリーダープログラム（GLP）」― 次世代の経営者候補を育成するために、企業経営の要諦を学び、経営者としてのマインドセットを行う選抜研修プログラムです。世界中のマツダグループから選ばれた精鋭を対象に、経営トップとのコミュニケーション、世界各地の大学への派遣、チームによる経営課題への取り組みなど、実践的な活動を通して、リーダーシップ、広い視野、戦略構想力などを磨き、次代のグループ経営をリードする人材を育成しています。	Leading Mazda 21は2002年開始 2007年よりGLPとして一部リニューアル
技能五輪教育訓練	若手選抜技能者を対象として、技能五輪（職業のオリンピック）の日本一、世界一取得を目指すことによる各種技能の強化訓練を目的としています。参加職種には曲げ板金、自動車板金、車体塗装、木型、旋盤等があります。	1962年から全国・国際大会に選手を派遣 ・選手派遣累計数　418名 ・全国大会優勝32名　入賞165名 ・国際大会優勝5名　入賞13名
アーク溶接技術教育訓練	選抜された若手技能者を対象として、アーク溶接技量の日本一を目指す溶接技能の強化訓練を目的としています。	1984年から全国大会に選手を派遣 派遣累計35名　優勝7名　入賞22名
卓越技能者養成コース	熟練技能者を対象として、自動車製造に関する24のコア技能の伝承による卓越した技能者の育成を目的としています。教育訓練は伝承者と継承者のマンツーマン方式で行います。	1996年7月に開講 伝承修了認定（技能マイスター）累計48名 継承修了認定累計99名

フォードとの関係

共同事業概要

マツダとフォード・モーター・カンパニーは、1979年11月に資本提携を結んで以来、長期にわたり良好なパートナーシップの関係のもと、生産、開発、販売、物流など事業活動のあらゆる領域において共同で取り組んでおり、互いのシナジーを追求しています。



■オートアライアンス・インターナショナル, Inc.（AAI）

設　　立:1992年6月（MMUC）
出資比率:マツダ50%、フォード50%
自動車の製造・販売
生産車種:アテンザ

■長安フォードマツダ汽車有限公司

設　　立:2006年3月
出資比率:マツダ15%、フォード35%、長安汽車50%
自動車の製造・販売
生産車種:デミオ（南京工場）、アクセラ（重慶工場）

■長安フォードマツダエンジン有限公司

設　　立:2005年9月
出資比率:マツダ25%、フォード25%、長安汽車50%
自動車エンジンの製造・販売

■オートアライアンス（タイランド）Co., Ltd.（AAT）

設　　立:1995年11月
出資比率:マツダ45%、マツダセールスタイランド5%、フォード50%
自動車の製造・販売
自動車用エンジンの組立・販売
生産車種:BT-50

フォードとの協力関係におけるこれまでの主な推移

1979年	11月	資本提携、フォードの持株比率25%
1982年	10月	オートラマチャネル営業開始（フォードブランド車販売）
1992年	6月	MMUCをオートアライアンス・インターナショナル, Inc.（AAI）と社名変更し、フォードと共同経営化
	7月	フォードと当社のオートラマへの出資比率を均等化
1993年	6月	フォードより小型トラックを購入し、「マツダBシリーズ」として北米で販売を開始
	12月	長期的観点から、両社間の協力拡大強化を狙った戦略的協力関係の構築に合意
1995年	11月	フォードと合弁で、タイにオートアライアンス（タイランド）社（AAT）を設立
1996年	3月	フォードより小型乗用車を購入し、「マツダ121」として欧州での販売を開始
	5月	フォードとの戦略的協力関係強化、フォードの持株比率を25%から33.4%に引き上げ
	6月	ヘンリーD.G. ウォレス社長就任
1997年	1月	オートラマをフォードセールスジャパンに社名変更
	3月	フォードと商品サイクルプランの同期化／プラットフォームの共通化に基本合意
	11月	ジェームズE. ミラー社長就任
1998年	5月	AAT社で小型ピックアップトラックを生産開始
1999年	3月	当社の保有するフォードセールスジャパンの株式をフォードオブジャパンに売却
	11月	フォードと新型エンジンシリーズを共同開発し、分業生産することを発表
	12月	マーク・フィールズ社長就任
2000年	11月	フォードとの共同開発車「トリビュート」を国内で発売
2002年	1月	フォードグループのセンターオブエクセレンスとして開発した「MZRエンジン」の日本での生産を開始
	6月	ルイス・ブース社長就任（2003年8月退任）
2003年	1月	フォードのバレンシア工場（スペイン）で「Mazda2」の生産を開始
2004年	6月	資本提携25周年　フォード会長兼CEOビル・フォード氏がマツダを訪問
2005年	9月	フォードおよび長安汽車と合弁で「長安フォードマツダエンジン有限公司」を設立
2006年	2月	長安フォード重慶工場にてMazda3の生産開始
	3月	長安フォードにマツダが出資し、「長安フォードマツダ汽車有限公司」に社名変更
2007年	4月	長安フォードマツダエンジン有限公司でエンジンの生産開始
	10月	長安フォードマツダ汽車有限公司南京工場でMazda2の生産開始
2008年	11月	フォードの持ち株比率を33.4%から13.8%へと変更
2009年	7月	マツダとフォードは、AAT社に新乗用車工場の建設を完成

社歴

1920-1986

1920年	1月	東洋コルク工業株式会社として創立、海塚新八社長就任
21年	3月	松田重次郎社長就任
27年	9月	東洋工業株式会社に改称
29年	4月	工作機械の製作開始
31年	10月	3輪トラックの生産開始
32年	―	大連、奉天、青島へ3輪トラック初輸出
35年	10月	さく岩機の生産開始
45年	8月	（広島に原子爆弾投下） （第二次世界大戦終戦） 建物の一部を広島県に貸与、県庁の全機構が当社に移される（～'46年7月）
49年	8月	3輪トラック輸出再開（インド）
51年	12月	松田恒次社長就任
58年	4月	小型4輪トラック「ロンパー」新発売
60年	5月	軽乗用車「R360」新発売
61年	2月	独NSU社、バンケル社とロータリーエンジンに関し技術提携
	8月	「B1500」新発売
62年	1月	韓国で現地組立開始
	2月	軽乗用車「キャロル」新発売
63年	3月	自動車生産累計100万台達成
	6月	南アフリカで現地組立開始
	10月	「ファミリアバン」新発売
64年	1月	「E2000」新発売
	4月	「ファミリア800ワゴン」新発売
65年	1月	英国パーキンスサービス社とディーゼルエンジンに関し技術提携
	5月	三次自動車試験場完成
	10月	「プロシード」新発売
66年	5月	「ボンゴ」新発売
	8月	「ルーチェ」新発売
	11月	宇品乗用車専用工場完成
67年	3月	欧州向け本格輸出開始
	4月	オーストラリアに販売会社を設立
	5月	初のロータリーエンジン搭載車、「コスモスポーツ」新発売
	11月	「ファミリア」をフルモデルチェンジ
68年	7月	カナダに販売会社を設立
	9月	マレーシアで乗用車現地組立開始
69年	4月	ロータリーエンジン車本格輸出開始
	10月	フォード、日産、東洋工業株式会社の3社でJATCO（日本自動変速機）の設立合意
70年	3月	「ファミリア」シリーズ生産累計100万台達成
	4月	対米輸出開始
	5月	「カペラ」新発売
	11月	松田耕平社長就任
71年	2月	マツダモーターオブアメリカ（MMA）設立 インドネシアで現地組立を開始
	8月	「タイタン」新発売
	9月	「サバンナ」新発売
	12月	フォードへ「クーリエ」（プロシード）供給開始
72年	10月	マツダトレーニングセンター鯛尾完成
	12月	自動車生産累計500万台達成
1973年	3月	西ドイツに販売会社を設立
	10月	輸出累計100万台達成 「ファミリア」をフルモデルチェンジ
74年	1月	フィリピンで現地組立を開始
	2月	「カペラ」をフルモデルチェンジ
	5月	三次ディーゼルエンジン工場完成
1975年	1月	タイで現地組立を開始
	10月	「コスモ」新発売
77年	1月	「ファミリア」をフルモデルチェンジ
	10月	「ルーチェレガート」新発売
	12月	山崎芳樹社長就任
78年	1月	ロータリーエンジン車生産累計100万台達成
	3月	「サバンナRX-7」新発売
	10月	「カペラ」をフルモデルチェンジ
79年	1月	社章変更
	2月	対米輸出累計100万台達成
	6月	自動車生産累計1,000万台達成
	11月	フォードと資本提携
80年	6月	「ファミリア」をフルモデルチェンジ
	10月	「タイタン」をフルモデルチェンジ
	12月	5代目ファミリア「1980-1981日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
81年	4月	（対米乗用車輸出規制始まる） 輸出累計500万台達成 北米マツダ（MANA）を設立
	9月	「コスモ」をフルモデルチェンジ
	10月	「ルーチェ」をフルモデルチェンジ
	12月	防府中関変速機工場稼働開始 「オートラマ」を設立（'82年10月より商品供給開始）
82年	9月	防府西浦工場本格操業開始 「カペラ」をフルモデルチェンジ
	12月	カペラ／テルスターが「1982-1983日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
83年	4月	コロンビアで現地生産開始
	6月	「ボンゴブローニイ」新発売
	9月	「ボンゴ」をフルモデルチェンジ
84年	5月	マツダ株式会社へ社名変更
	10月	マツダ財団設立
	11月	山本健一社長就任
85年	1月	「ファミリア」をフルモデルチェンジ 米国生産会社（MMUC）を設立
	8月	乗用車生産累計1,000万台を達成
	10月	「サバンナRX-7」をフルモデルチェンジ
	12月	「ファミリアバン」をフルモデルチェンジ
86年	2月	「フェスティバ」新発売
	4月	ロータリーエンジン車生産累計150万台達成
	9月	「ルーチェ」をフルモデルチェンジ
	11月	ファミリア生産累計500万台達成
	12月	マツダR&Dセンター、アンナーバー（米国）完成

社歴

1987-1996

1987年	1月	「エチュード」新発売
	4月	生産累計2,000万台を達成
	5月	「カペラ」をフルモデルチェンジ
	6月	技術研究所横浜研究所開設
	9月	米国生産会社(MMUC)で量産第1号車ラインオフ
	12月	スズキ(株)(鈴木自動車工業)との軽自動車生産協力を発表
		古田徳昌社長就任
88年	5月	MI(マツダ・イノベーション)計画スタート
		マツダR&Dセンター、アーバイン(米国)完成
	6月	米国から「フォードプローブ」輸入開始
	10月	ヨーロッパに販売会社(MME)設立
		「ペルソナ」新発売
89年	2月	「ファミリア」をフルモデルチェンジ
	4月	「ユーノス」「オートザム」設立
	5月	「タイタン」をフルモデルチェンジ
	6月	東京支社を東京本社に呼称変更
		スズキ(株)からのOEM供給車「スクラム」新発売
	7月	「シトロエン車」輸入開始
	9月	「ユーノスロードスター」新発売
	11月	「ユーノス100」「ユーノス300」新発売
		「キャロル」(550)新発売
90年	1月	「MPV」新発売
		「プロシード」国内向け販売再開
	4月	「ユーノスコスモ」新発売
	5月	マツダ欧州R&D事務所(MRE)完成
	9月	「レビュー」新発売
	12月	生産累計2,500万台達成
91年	1月	「プロシードマービー」新発売
	5月	「センティア」新発売
	6月	「ユーノスプレッソ」新発売
		「AZ-3」新発売
		第59回ル・マン24時間レースでマツダ787Bが日本車史上初の総合優勝
	10月	商用車累計1,000万台達成
		「クロノス」新発売
		「スクラム」をフルモデルチェンジ
		水素RE自動車「HR-X」を東京モーターショーで発表
	11月	マツダオートチャネルを「アンフィニ」に変更
		「アンフィニMS-6」「アンフィニMS-9」新発売
	12月	「アンフィニRX-7」新発売
		和田淑弘社長就任

1992年	1月	「マツダMX-6」新発売
	2月	「ユーノス500」新発売
		防府第2工場本格操業を開始
	3月	「アンフィニMS-8」新発売
	4月	「マツダ地球環境憲章」を制定
	5月	「クレフ」新発売
	6月	米国生産会社(MMUC)をオートアライアンス・インターナショナル, Inc.(AAI)に社名変更し、フォードと共同経営化
	7月	オートラマへの出資比率をフォード社と当社で均等化
	10月	「AZ-1」新発売
	11月	天然ガスエンジン搭載乗用車を開発
93年	1月	「ユーノスロードスター」ベースの高性能電気自動車を開発
	3月	環境に関する行動推進計画を策定
	4月	ミラーサイクルエンジンの開発に成功
	5月	防府工場、生産累計300万台達成
		米国AAIでの生産累計100万台達成
	6月	フォード製「Bシリーズ・トラック」を北米で発売
	9月	「ランティス」新発売
	10月	「ユーノス800」新発売
	12月	フォードとの新しい戦略的協力関係構築を発表
94年	2月	タイタン天然ガストラックを開発
	6月	「ファミリア」をフルモデルチェンジ
	8月	「カペラ」をフルモデルチェンジ
	9月	スズキ(株)からのOEM供給車「AZ-ワゴン」新発売
		日産からのOEM供給車「ファミリアバン、ワゴン」新発売
	11月	国内自動車メーカーで初めて「ISO9002」規格の認証を取得
	12月	フォード向けトランスミッションの供給1,000万台を達成
95年	2月	「プロシードレバンテ」新発売
	4月	生産累計3,000万台達成
	6月	「ボンゴフレンディ」新発売
	10月	先進安全研究車「マツダASV」完成
	11月	「センティア」をフルモデルチェンジ
		「キャロル」をフルモデルチェンジ
		フォードと合弁でタイに「オートアライアンス(タイランド)社(AAT)」を設立
96年	2月	タイAAT社着工
	3月	フォード製「マツダ121」を欧州で販売開始
	4月	「アンフィニ」店を「マツダアンフィニ」店に呼称変更
		「ユーノス」店を「マツダアンフィニ」店または「マツダ店」に統合
		フォード社との戦略的協力関係を強化
		乗用車生産累計2,000万台を達成
	5月	フォード社の持ち株比率を25%から33.4%に引き上げ
	6月	開発からアフターサービスまでカバーするISO9001を国内自動車メーカーで初めて取得
		ヘンリーD. G. ウォレス社長就任
	8月	自由型ワゴン「デミオ」新発売
	10月	「デミオ」が「RJCニュー・カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
	11月	「デミオ」が「日本カー・オブ・ザ・イヤー特別賞」を受賞
	12月	マツダデジタルイノベーション(MDI)に着手

1997-2002

1997年	2月	北米事業強化に着手
	4月	「新人事システム」を導入
	6月	「新ブランドシンボル」を制定
	7月	「ユーノス800」を「ミレーニア」に車名変更
	8月	「カペラ」をフルモデルチェンジ
	10月	北米事業を統合（MNAOスタート）
	11月	ジェームスE. ミラー社長就任
		「カペラワゴン」をフルモデルチェンジ
	12月	倫理委員会を設置
		燃料電池電気自動車「デミオFCEV」を開発
98年	1月	「ロードスター」をフルモデルチェンジ
		社章を変更
	3月	欧州事業を統合、強化
		MDIフェーズⅡ開始
	4月	ベンツ、フォード、バラード社とのFCEV事業に参加
		プロダクトフィロソフィーを制定
		防府工場が生産累計400万台を達成
	5月	「女性相談室」を設置
		タイAAT社で生産開始
	6月	「ファミリア」をフルモデルチェンジ
	8月	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V.（MLE）を設立
	9月	防府工場・西浦工場がISO14001を取得
	10月	新規格軽自動車「キャロル」「AZ-ワゴン」「AZ-オフロード」
		新発売
	12月	タイAAT社で輸出開始
99年	1月	「スクラム」をフルモデルチェンジ
	3月	「ラピュタ」新発売
	4月	アルデヒド除去剤「ライフ・ブレス」を開発
		ブランドメッセージ「心を動かす新発想」を発表
		「プレマシー」新発売
	6月	AAIが生産累計200万台を達成
		「ファミリアバン、ビジネスワゴン」フルモデルチェンジ
		「ボンゴ」バン、トラック をフルモデルチェンジ
		三菱自動車と小型商用車のOEM供給で合意
		「MPV」をフルモデルチェンジ
	8月	女性社員の活用と処遇の改善策を発表
	9月	防府工場が環境ISO認証の取得を完了
	10月	先進安全研究車、「マツダASV-2」を開発
	11月	新型エンジンシリーズのフォードとの共同開発、
		分業生産を発表
	12月	マーク・フィールズ社長就任
2000年	4月	燃料電池電気自動車の実車走行試験・共同プロジェクト
		に参加
	6月	「タイタン」をフルモデルチェンジ
		全国内生産拠点でISO14001認証を取得
	7月	「ロードスター」ギネスに認定
		メディアウェブサイトを開設
	9月	MDIフェーズⅢを開始
	10月	「タイタンダッシュ」新発売
	11月	中期経営計画「ミレニアムプラン」を発表
		「トリビュート」新発売

2001年	2月	日本初、インターネットを使った受注生産（BTO）を開始
		横浜（MRY）でロードショー「Mazda Mirai」を開催
		フランスに100%出資の卸売販売会社を設立
		燃料電池自動車「プレマシーFC-EV」を開発、国内初の
		公道走行試験を開始
		フランクフルト（MRE）でロードショーを開催
	3月	ニューヨークでロードショーを開催
		早期退職優遇特別プランを実施
	4月	広島本社で「Mazda Mirai」を開催
	5月	スズキと軽四輪車OEM契約を継続
	6月	マツダ防府工場、変速機の生産累計2,000万基を達成
	7月	イギリスの販売体制を強化
	9月	「マツダ・フレックスベネフィット」を導入
		スイスの販売を強化
		宇品第2工場を閉鎖
		労使共同宣言調印
	12月	新世代モジュール基材用の高強度プラスチック技術を開発
02年	1月	北海道 中札内試験場を竣工
		防府工場が累計生産台数500万台を達成
		MZRエンジンの日本での生産を開始
	2月	「スピアーノ」新発売
	3月	事業所内保育施設「わくわくキッズ園」を設置
	4月	新ブランドメッセージ「Zoom-Zoom」を展開
		人材育成プログラム「Leading Mazda 21」を開発
		中・東欧の販売を強化
	5月	コーポレートガバナンスを強化
		「マツダ アテンザ」新発売
	6月	ルイス・ブース社長兼CEO就任
	7月	「ロータリーエンジン発明者ヴァンケル博士生誕100周年
		記念展」に協力
		次世代エンジン「MZR1.3/1.5」を開発
		「セミドライ加工」で環境への負荷を軽減
		中国ビジネスを強化
		環境にやさしい「スリー・ウエット・オン塗装技術」を開発
	8月	「Mazda6」（アテンザ）の中国生産を決定
		「マツダ デミオ」をフルモデルチェンジ
		マツダレンタリースのリースカー事業を住銀オートリースに売却
	9月	マツダアステックをサンドビックグループに営業譲渡
		機能統合モジュール技術を北米に展開
		米国AAI社で「Mazda6」生産開始
	10月	国内生産体制の再編成を発表
		（U2工場再稼働、F工場閉鎖）
		「Mazda6」がニュージーランドのカー・オブ・ザ・イヤーを受賞
		国内販売網を強化（広域統合）
	11月	「マツダ アテンザ」が「2003RJCカー・オブ・ザ・イヤーを受賞」
	12月	先進安全自動車の公道走行試験開始
		経営諮問委員会を設置

社歴

2003-2005

2003年	1月	欧州で「Mazda2（デミオ）」の生産を開始
		中国一汽乗用車で「Mazda6」の生産開始
		新世代ロータリーエンジン「RENESIS」の生産を開始
	2月	「マツダ RX-8」の生産を開始
		摩擦熱を利用したアルミ材接合技術を世界で初めて開発
	4月	優れた歩行者保護性能を持つ衝撃吸収構造アルミボンネットを開発
		「マツダ RX-8」を発表
	5月	コモンレール式直噴ターボディーゼルエンジンを開発
	6月	「RENESIS」が「インターナショナル・エンジン・オブ・ザ・イヤー2003」を受賞
	7月	いすゞ（株）と小型トラックのOEM供給で合意
	8月	井巻久一社長兼CEO就任
	9月	オーストリアのディストリビューターの全株式を取得
	10月	「マツダ AZ-ワゴン」をフルモデルチェンジ
		マツダとフォード、タイAAT社に5億ドルを投資することを発表
		「RENESIS水素ロータリーエンジン」を東京モーターショーに出品
		「マツダ アクセラ」新発売
	11月	「マツダ RX-8」が「2004RJCカー・オブ・ザ・イヤー」を受賞、「RENESIS」が「RJCテクノロジー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
	12月	「Mazda6」が中国の「2004年カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
		環境対応スリー・ウエット・オン塗装技術で第1回新機械新興賞を受賞
04年	1月	「マツダ RX-8」がオーストラリア自動車専門誌「Wheels」でカー・オブ・ザ・イヤーを受賞
	2月	販売系列全店で軽自動車の扱いを開始、登録車も併売を拡大
		「Mazda3（日本名：マツダ アクセラ）」がカナダ・カー・オブ・ザ・イヤーを受賞
	3月	開発力強化のため新ステージのデジタル革新「MDI-Ⅱ」計画に投資
	4月	本社第1工場生産終了、国内生産体制再編
	5月	宇品第2工場を再稼働
		「RENESIS」が「インターナショナル・エンジン・オブ・ザ・イヤー2.5～3.0リットル」部門賞を2年連続で受賞
	6月	「マツダ タイタン」を一新して発売、全ディーゼル車が新短期排出ガス規制をクリア
		フォード会長兼CEOが資本提携25周年を祝いマツダを訪問
		「マツダ ベリーサ」新発売
	7月	長安フォード、南京への投資に調印、マツダ（株）、フォードモーターカンパニー、長安汽車の3社協力を開始
	8月	新型スペースワゴン「Mazda5」を2004年パリモーターショーに出品
	9月	マツダレンタカーの全株式を譲渡
		「Mazda6 MPS」をパリモーターショーに出品
		「キャロル」をフルモデルチェンジ
	10月	新型「マツダ プレマシー」を東京モーターショーに出品
		RX-8水素ロータリーエンジン車の公道走行を開始
	11月	「マツダ ベリーサ」が「2004-2005日本カー・オブ・ザ・イヤー」の特別賞「Best Value（ベスト・バリュー）」を受賞
		マツダのスリー・ウエット・オン塗装技術が地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞
	12月	メキシコ市場への参入を発表
		2.3L直噴ガソリンターボエンジンを新開発、「マツダスピードアテンザ」に搭載
		宇品第1工場火災

2005年	2月	「マツダミュージアム」を全面リニューアル
		「マツダ プレマシー」をフルモデルチェンジ
		省エネルギー実施優秀事例「経済産業大臣表彰」を3年連続で受賞
		本社敷地内に水素ステーションを開設
		新型「MAZDA MX-5」をジュネーブショーに出品
	3月	中国に統括会社を設立
	4月	広島大学大学院工学研究科と自動車の先進技術の研究協力で契約
		マツダ／フォード／長安汽車、南京のエンジン製造会社の合弁契約を締結
		新生宇品第1工場塗装ライン稼働
		自動車技術会より「浅原賞学術奨励賞」受賞
		バンパーからバンパーへのリサイクル実現
		ゲイリー・エー・ロウ氏、米国AAI社の社長兼CEOに就任
	5月	マツダ地球環境憲章を改訂、環境への取り組みをグループで強化
	6月	中国事業を統括する「マツダ（上海）管理諮詢有限公司」の開所式を実施
		世界初、摩擦熱を利用した鉄とアルミ材の点接合技術を開発
		人気車種「アクセラ」生産体制を強化
	7月	地球温暖化防止のための55のアクションプランをスタート
	8月	中国技術支援センターを開設
		「マツダ ロードスター」をフルモデルチェンジ
		統括会社「マツダサウスイーストアジア リミテッド」をタイに設立
	9月	「スクラムワゴン、バン」をフルモデルチェンジ
		マツダ／フォード／長安汽車集団、合弁で南京にエンジン会社を設立
	10月	新世代テレマティクス MAZDA G-BOOK ALPHAを導入
	11月	ニュージーランドのディストリビューターの全株式を取得
		「マツダ ロードスター」が「2005-2006日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
	12月	MZRエンジン（1.8L～2.3L）の生産能力を705千台に増強すると発表
		卸売販売会社「マツダモーターロシアOOO」設立(2006年4月営業開始)

2006－2007

2006年	1月	クロスオーバータイプの北米向けモデル「Mazda CX-7」を発表
		マツダ／三菱商事、エネルギー供給会社を設立（MCMエネルギーサービス（株））
	2月	「マツダ MPV」をフルモデルチェンジ
		「トリビュートハイブリッド」を米国オレンジカウンティ消防局へ提供
		「マツダ MPV」、生産累計100万台を達成
		インドネシアに新たに卸売販売会社を設立
		ジュネーブモーターショーに「Mazda3 MPS」を出品
	3月	2006年バンコク国際モーターショーに「マツダ BT-50」を出品
		「マツダ アテンザ」、世界累計生産台数100万台を達成
		商談支援ツール「ビジュアル IT プレゼンテーション」の導入を拡大
		世界初、水素ロータリーエンジン車「RX-8ハイドロジェンRE」をリース販売
		長安フォードにマツダが出資し、「長安フォードマツダ汽車有限公司」に社名変更
	4月	「エキスパート・ファミリー制度」を導入
		マツダ、ロシアの販売体制を強化
		マツダオートザム　販売累計台数100万台達成
		ニューヨーク国際自動車ショーに新型クロスオーバーSUV「Mazda CX-9」を出品
		「マツダ スピアーノ」をマイナーチェンジ
		水素ロータリーエンジン車を広島県および広島市に納入
		「マツダ プレマシー」が日本と欧州の衝突安全性能評価で最高ランクを獲得
		自動車技術会より「浅原賞技術功労賞」および「技術開発賞」を受賞
	5月	産学官の連携で自動車用バイオプラスチックを開発
		美祢自動車試験場の開所式を実施
	6月	「マツダ アクセラ」をマイナーチェンジ
		品質工学会より第1回「田口賞」を受賞
	7月	アイルランドに販売統括会社を設立
		防府工場の累計生産台数700万台を達成
		自動車運搬船「クーガーエース」事故
	8月	「マツダ ベリーサ」をマイナーチェンジ
		「マツダ ロードスター　パワーリトラクタブルハードトップ」を新発売
		「マツダ アクセラ」、国内累計生産台数100万台を達成
	9月	オートアライアンス・インターナショナルが生産累計300万台を達成
		防府工場でのトランスミッション生産累計2,500万基を達成
		「マツダ デミオ」、国内累計生産台数100万台を達成
	10月	チェコ共和国とスロバキア共和国に販売統括拠点を開設
		マツダオフィシャルウェブサイトを刷新
		「マツダ CX-9」の生産を開始
		MZRエンジン（1.8L～2.3L）の生産能力を756千台に増強
	11月	「マツダ MPV」2.3L　DISIターボエンジン車、エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞（優秀賞）を受賞
		ロサンゼルスモーターショーにコンセプトカー「マツダ流／Mazda NAGARE」を出品
	12月	「マツダ CX-7」を新発売
		「マツダ キャロル」をマイナーチェンジ

2007年	1月	北米国際自動車ショーにコンセプトカー「マツダ 流雅（りゅうが）」を出品
		「マツダ タイタン」をフルモデルチェンジ
		欧州での暦年販売台数が30万台を突破
		「マツダ ファミリアバン」をフルモデルチェンジ
		「マツダ ロードスター」が生産累計80万台を達成
	2月	北海道で水素自動車の寒冷地調査に協力
		米フォードのムラーリーCEOがマツダ本社を表敬訪問
	3月	ジュネーブモーターショーに新型「Mazda2」とコンセプトカー「マツダ 葉風（はかぜ）」を出品
		水素ロータリーエンジン車を日本自動車研究所に納入
		新中期計画「マツダ アドバンスメント プラン」を策定
		技術開発の長期ビジョン「サステイナブル “Zoom-Zoom” 宣言」を策定
		上海国際モーターショーに「マツダ 流雅」を出品
	4月	ベルギー・ルクセンブルク市場に販売統括拠点を設立
		水素ロータリーエンジン技術を日本科学未来館に展示
		「タイランド・カー・オブ・ザ・イヤー」の3カテゴリーで受賞
		自動車技術会より「浅原賞学術奨励賞」および「技術開発賞」を受賞
		中国合弁会社でのエンジン量産開始を発表
	5月	厚生労働省の次世代認定マーク「くるみん」を取得
		ロータリーエンジン車発売40周年を迎える
		自然吸気MZR1.3L「ミラーサイクル」エンジンを新開発
	6月	広島地区におけるITS公道実証実験に参加
	7月	広島-東海地区間のグリーン物流システムを構築
		「マツダ デミオ」をフルモデルチェンジ
		国内生産累計4,000万台を達成
		タイAAT社が生産累計100万台を達成
		V型6気筒エンジンと直列4気筒エンジンの混流生産を実現
		水素ロータリーエンジン車を経済産業省に納入
	8月	フランクフルトモーターショーに新型「Mazda6」を出品
	9月	「マツダ プレマシー」をマイナーチェンジ
		植物由来100％の繊維からなる自動車内装用バイオファブリックを開発
		長安フォードマツダ汽車有限公司が南京車両工場の竣工式を実施
	10月	シングルナノテクノロジーを活用した自動車用触媒を開発
		東京モーターショーに新型「マツダ アテンザ」「マツダ 大気（たいき）」を出品
		タイAAT社の新乗用車工場計画を発表
		世界共通の顧客向け情報誌『Zoom-Zoom』を発行
		長安フォードマツダ南京工場で中国市場向け新型『Mazda2』を生産
	11月	ノルウェー国家プロジェクトHyNor（ハイノール）に参画し、2008年夏から水素ロータリーエンジン車をノルウェーに納入
		「マツダ デミオ」が「2008年RJCカー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
		第39回技能五輪国際大会で金メダルを獲得
	12月	美祢自動車試験場の新テストコースが完成
		北米国際自動車ショーにコンセプトカー「マツダ 風籟（ふうらい）」を出品
		「Mazda2」が欧州の衝突安全性能評価で最高ランクを獲得

社歴

2008-2009

2008年	1月	「マツダCX-9」が「2008 North American Truck of the Year」を受賞
		広島地区の産学官共同でITS公道実証実験を実施
		国内初のリアビークルモニタリングシステムを実用化
		「マツダ アテンザ」をフルモデルチェンジして発売
		「マツダ MPV」をマイナーチェンジ
	2月	全国初の「人権擁護功労賞」を受賞
	3月	ジュネーブモーターショーに新型「Mazda2」 3ドアハッチバックを出品
		先進安全自動車「マツダASV-4」の公道走行試験を開始
		「Mazda2」が「2008世界カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
	4月	国内販売会社に環境マネジメントシステム「エコアクション21」を導入
		北京モーターショーに新型「Mazda6」と「マツダ大気（たいき）」を出品
		「ロータリーエンジン車発売40周年展」を国立科学博物館にて開催
	5月	自動車技術会よりディーゼルエンジン用PM触媒の燃焼メカニズムの解析において「論文賞」を受賞
	6月	食糧と競合しないバイオプラスチックの技術開発に着手
		防府工場の累計生産台数800万台を達成
		ブランドを視覚的に表現するグローバル・ビジュアル・アイデンティティを導入
		「マツダ プレマシー ハイドロジェンREハイブリッド」の国土交通大臣認定を取得
		CO2排出量削減に向けた取り組みを発表
		ー2015年までにグローバルでマツダ車の燃費を30%向上ー
		トルコに新たな販売網を設立
	7月	全国規模の部品販売会社、マツダパーツ株式会社を設立
		新型ミニバン「マツダ ビアンテ」を発売
		AAI社で北米向け新型「Mazda6」の生産を開始
		マツダミュージアム夏季特別イベント「水素ロータリーエンジン車展」と「Nagareコンセプトカー展」を同時開催
		プロ野球「マツダオールスターゲーム2008」に協賛
		グリーン電力を「マツダオールスターゲーム2008」に提供
	8月	「フィジカル チャレンジ サポートデスク」を開設
		「マツダ船積み見学会」と「マツダ社会科学習支援研修会」を開催
		ワークライフバランス充実のための10施策を実施ー育児・介護と就業の両立を支援
		モスクワモーターショーにコンセプトカー「マツダ風舞（かざまい）」を出品
	9月	直噴エンジンの技術を活用した独自のアイドリングストップ機構「アイ・ストップ（i-stop）」を開発
		出力性能と環境性能を大幅に向上させた新型クリーンディーゼルエンジンを開発
		樹脂の使用量を30%削減できるプラスチック成形技術を開発
		「国際福祉機器展H.C.R.2008」に福祉車両を出品
		シベリア鉄道を利用した車両輸送を開始
		「マツダAZ-ワゴン」をフルモデルチェンジして発売
	10月	オランダに直営販売統括拠点を設立
		パリモーターショーにコンセプトカー「マツダ清（きよら）」を出品
		ノルウェーで水素ロータリーエンジン車の公道走行を開始
		マツダミュージアム来場者100万人達成 、開館以来14年4ヶ月
		「マツダ アクセラ(Mazda3)」、世界累計生産200万台を達成
	11月	欧州で開催される「JAPAN CAR」展に「マツダ ロードスター」を出展
		山内孝社長兼CEO就任
		フォードのマツダ株式の持株比率を33.4%から約13%へ変更
		ロサンゼルス・モーターショーに新型「Mazda3」セダンを出品
		「からくり改善くふう展」に25作品を出品
	12月	ボローニャモーターショーに新型「Mazda3」5ドアハッチバックを出品
		環境展示会「エコプロダクツ2008」に出展
		「マツダ ロードスター」をマイナーチェンジ
2009年	1月	2009年北米国際自動車ショーに新型「Mazda3」を出品
		貴金属の使用量を約70%削減できるシングルナノ触媒を世界で初めて実用化
	3月	ジュネーブモーターショーに新型「Mazda3」i-stop搭載モデルと新型「Mazda3 MPS」を出品
		世界初の廃車バンパーリサイクル自動化技術を開発
		日本メーカー初の乗用車用尿素SCRシステムを開発
		世界初のハイブリッドシステム搭載水素ロータリーエンジン車『マツダ プレマシー ハイドロジェンREハイブリッド』のリース販売を開始
		新型「マツダ AZ-ワゴンi（アイ）」を発売
		「マツダ（中国）トレーニングセンター」を北京、上海、深センに開設
	4月	一汽マツダ汽車販売有限公司に増資し、出資比率を25%から40%に引き上げ、販売網を強化
	6月	国内で新型「マツダ アクセラ」をフルモデルチェンジして発売
		世界で最も環境負荷の少ない新水性塗装技術「アクアテック塗装」の開発に成功し、宇品第一工場への導入を開始
	7月	AAT新乗用車工場完成
		プロ野球「マツダオールスターゲーム2009」に協賛

製品名の由来

乗用車

国内名	意　味	発売年	由　来	海外名
デミオ Demio	私の～ （スペイン語からの造語）	1996	スペイン語を合成した造語で英語の“of mine”に相当します。「私の」「自分の」「俺の」という様に、「自分流の工夫をして楽しむ車」という気持ちをこめて命名したものです。	Mazda Demio Mazda2
ベリーサ Verisa	真の充足 （造語）	2004	ベリーサは、イタリア語の“Verita（真実）”と英語の“Satisfaction（満足）”との造語で、「真の充足」という意味です。こだわりを持つ人と、それに応えるモノとの理想的な関係を表現しています。	—
アクセラ Axela	感情の高鳴りと、無限に広がる可能性（造語）	2003	Accelerate（加速する、前へ進む）+"Accelerator"（アクセル）+"Excellent"（魅力的な、際立った、卓越した）を語源とした造語です。運転の喜びに伴う若々しい感情の高鳴り（"acceleration"）と、無限に広がる可能性（"x"）を表現しています。	Mazda3
アテンザ Atenza	注目 （イタリア語からの造語）	2002	マツダの新世代商品群の第一弾です。イタリア語の「attenzione:アテンツィオーネ（注目・配慮）」からの造語で、「細部まで商品力の高い、注目に値する製品である」という意味を込めています。Zoom-Zoomコンセプトを明確に体現した車として、人々の注目を浴びるよう、願いを込めて命名したものです。	Mazda6
RX-8	Rはロータリーエンジン、 Xは未来	2003	Rはロータリーエンジン、Xは未来を表しています。新型ロータリーエンジン「RENESIS」を搭載した新世代ロータリー車として、新しいジャンルのスポーツカーを創造したいという思いを込めて命名したものです。	Mazda RX-8
ロードスター Roadster	2シーターの屋根なし自動車	1989	ロードスターは、カブリオレ・コンバーチブル・ランナバウト等と同じボディ形状を表す名称です。北米市場でのサブネーム、Miataは古いドイツ語で報酬・贈り物の意味を持っています。	Mazda MX-5 ※1
プレマシー Premacy	至上、至高 （造語）	1999	英語Supremacy（至上、至高）からの造語。品質と機能を高次元で実現させたこのクルマが、各市場においてお客さまの信頼を獲得するとともに、存在感のある固有の地位を確立できるという自信をこのネーミングに込め命名したものです。	Mazda Premacy Mazda5
ビアンテ Biante	周囲を取り巻く、環境（造語）	2008	「周囲を取り巻く」、「環境」といった意味の英語"Ambient（アンビエント）"から発想した造語であり、「乗る人みんなの生活環境の一部となり、楽しく快適な暮らしづくりに貢献する」ことを意図したものです。	—
MPV	多目的車	1988	Multi Purpose Vehicle（多目的車）の頭文字をとってアメリカ市場への発売時に名付けられたものです。	Mazda MPV Mazda8
トリビュート Tribute	感謝の証として捧げるもの／賛辞（英語）	2000	マツダの創造性および技術力をお客さまに捧げ、アクティブなライフスタイルの実現に寄与するという思いを込めて命名したものです。	Mazda Tribute
CX-7	—	2006	「CX」はクロスオーバー（cross over）車のラインナップを表すという思いを込めて命名したものです。	Mazda CX-7
CX-9	—	2007	「CX」はクロスオーバー（cross over）車のラインナップを表すという思いを込めて命名したものです。	Mazda CX-9
キャロル Carol	祝歌、鳥のさえずり （英語）	1962	1970年まで軽乗用車の名前として使用していた。若い女性の、「かわいらしい、楽しい、響きが良い」等の評価を得て復活させたものです。	—
AZ-ワゴン AZ-Wagon	—	1994	AZはオートザムの略です。	—
AZ-オフロード AZ-Offroad	—	1998	AZはオートザムの略です。	—

※1 北米向けにはMazda MX-5 に「Miata」のサブネームがつく。

商用車

国内名	意　味	発売年	由　来	海外名
ボンゴ Bongo	大カモシカ （英語）	1966	マツダが日本で初めて実現したワンボックスカーを、堂々とした大カモシカになぞらえました。	Mazda E-Series
ボンゴブローニイ Bongo Brawny	力強い （英語）	1983	ボンゴから派生させた一回り大きいモデルに、より力強いイメージを付与しようと意図したものです。	Mazda E-Series
タイタン・ タイタンダッシュ Titan・Titan Dash	巨人 （英語）	1971	力強さが要求されるこのクラスのキャブトラックを、ギリシャ神話に登場する巨人一族になぞらえました。	Mazda T-Series Mazda E-Series
BT-50	B-series Truck 小型と大型トラックの中間	2006	「BT」は従来モデルである「B-Series Truck」（Bシリーズトラック）の頭文字をあてたもの。また、"50"という数字はこの1トントラックが、積載量500kg程度の小型トラックと大型トラックの中間に位置することを示しています。	Mazda BT-50
ファミリアバン Familia van	家族 （スペイン語）	1964	日本のモータリゼーションの発展期にあってファミリーカーのトップモデルにしたいとの思いを込めました。	—
スクラム Scrum	腕・肩を組むこと （英語）	1989	ラグビー用語から転じて、お客さまやマツダグループの協調・連帯を期して命名したものです。	—

製品一覧

国内／乗用車

デミオ／Demio

ベリーサ／Verisa

アクセラ／Axela

アテンザ／Atenza

RX-8

ロードスター／Roadster

プレマシー／Premacy

ビアンテ／Biante

MPV

CX-7

キャロル／Carol

AZ-ワゴン／AZ-Wagon

スクラムワゴン／Scrum wagon

AZ-オフロード／AZ-Offroad

国内／商用車

ボンゴバン／Bongo van

ボンゴトラック／Bongo truck

ボンゴブローニイバン／Bongo Brawny van

タイタンダッシュ／Titan Dash

タイタン／Titan

ファミリアバン／Familia van

スクラムバン／Scrum van

スクラムトラック／Scrum truck

海外販売専用車種

Mazda BT-50

Mazda CX-9

Mazda Tribute

Mazda2 3ドアハッチバック

Mazda2 セダン

マツダ株式会社

発　行:マツダ株式会社　広報本部

広島本社:広島県安芸郡府中町新地3-1　〒730-8670
東京本社:東京都千代田区内幸町1-1-7　〒100-0011

発行年月:2009年8月

「サステイナブル"Zoom-Zoom"宣言」
マツダは、持続可能な社会の実現に向けて、
走る歓びと環境・安全性能を同時に高めていくクルマづくりを表明しています。

マツダコールセンター　0120-386-919
受付時間／月～金 9:00～17:00
土日・祝日 9:00～17:00（12:00～13:00を除く）
マツダホームページURL　http://www.mazda.co.jp/

みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%